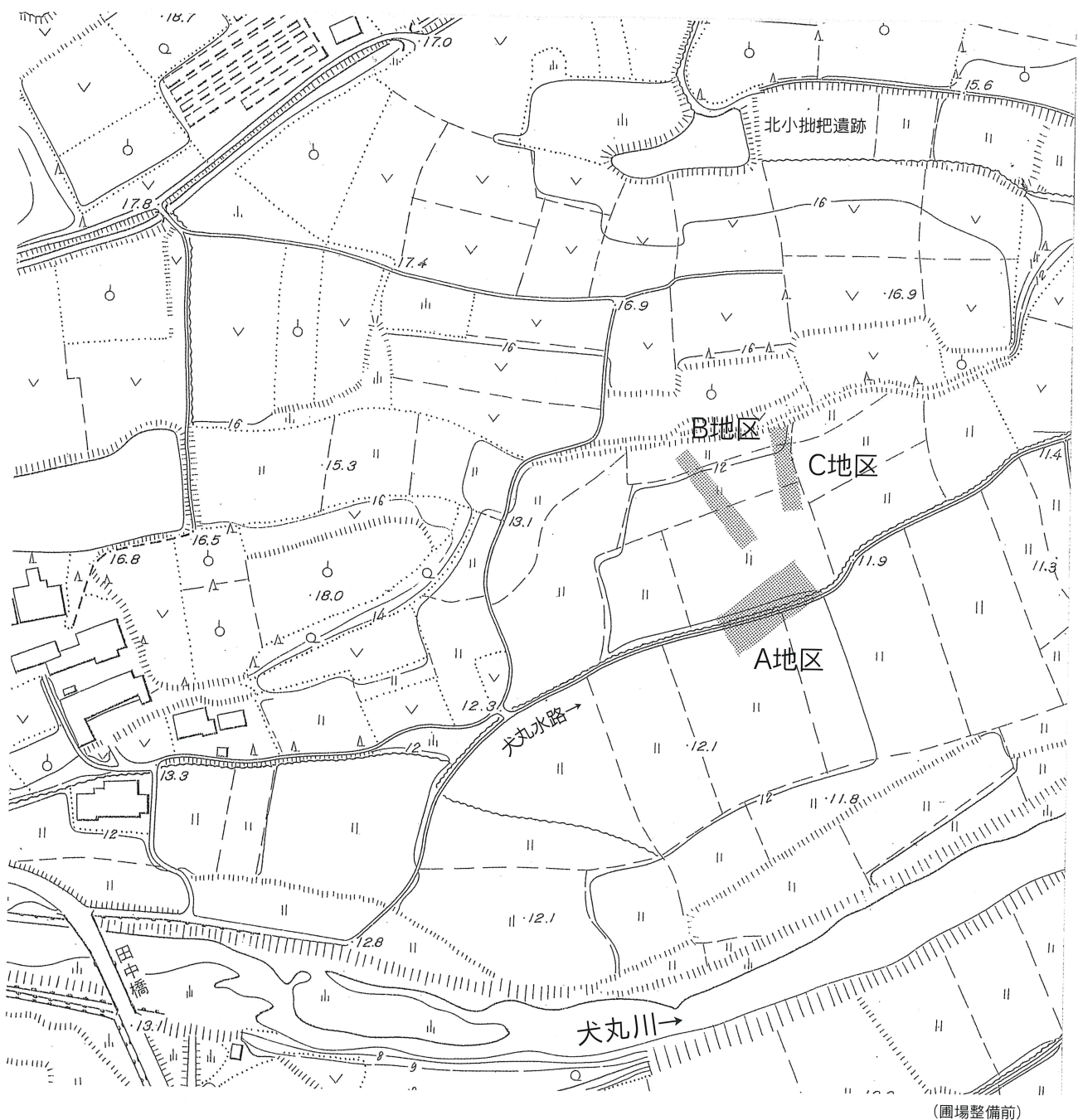


第6章 馬下遺跡

第1節 遺跡周辺の環境

馬下遺跡は下毛原台地の南を東流する犬丸川の作る沖積地に立地している。下毛原台地の中央付近に立地する田代遺跡や上畑成遺跡の標高が15m前後であったのに比べ、馬下遺跡の場所は標高11m前後となる。遺跡の西側は下毛原台地と犬丸川が接しており、沖積地が始まるのは遺跡の西側300mとなる。現在は圃場整備で旧状が失われており微地形が不明であるが、圃場整備前の地形図（第91図）を見ると、馬下遺跡の場所は西側200mにある灌漑池（池名不明）から伸びる谷水田と、犬丸川の作る沖積地が合流する地点にあたることになる。

また、「馬下」という地名は、古代官道が犬丸川を渡る地点にあたることから付けられた地名と考えられる。犬丸川の対岸にある野依地区条里跡（田中地区）では、官道の痕跡が確認されている。

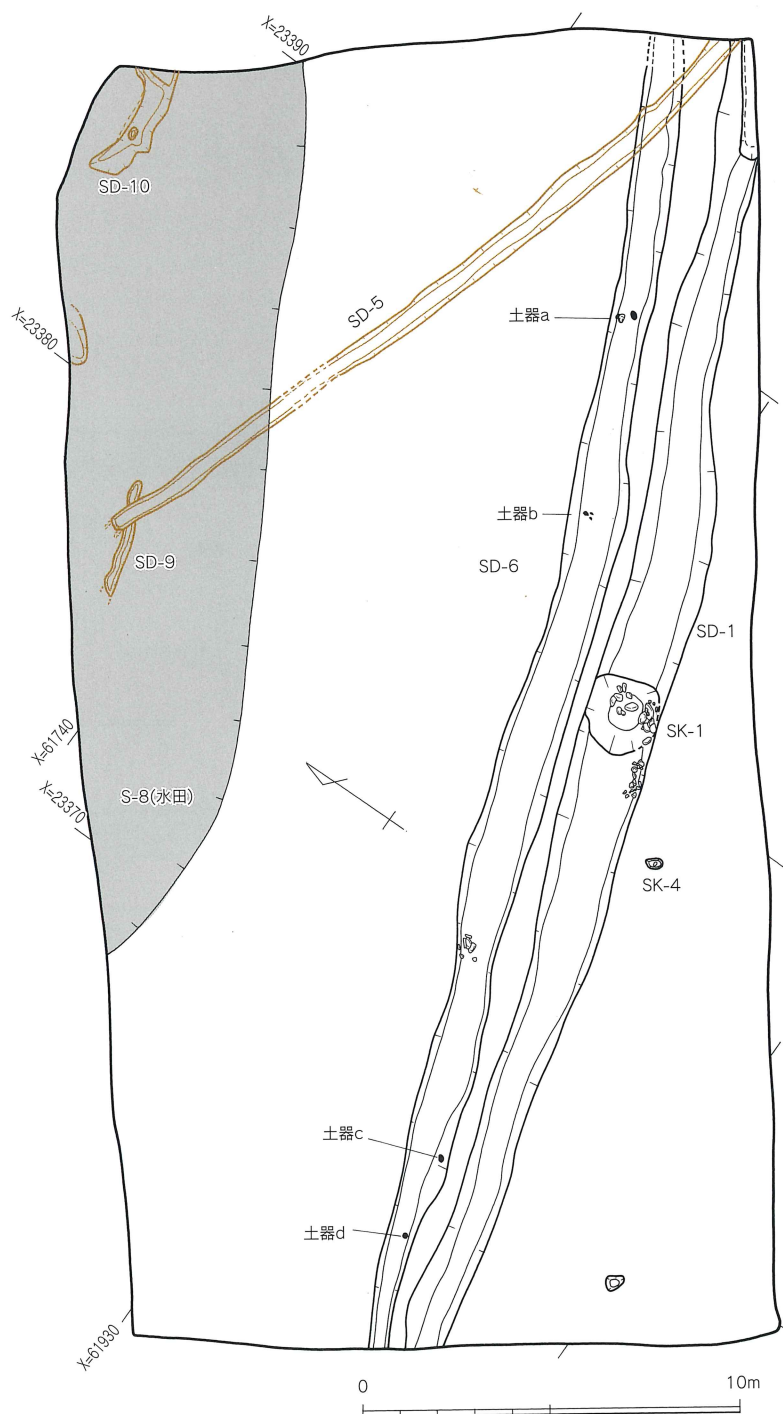


第91図 馬下遺跡調査区位置図(2,500分の1)

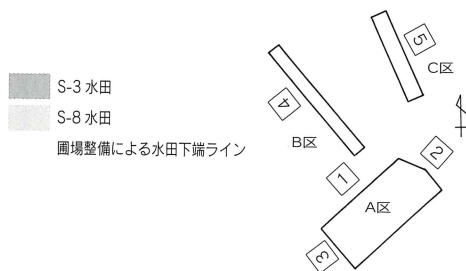
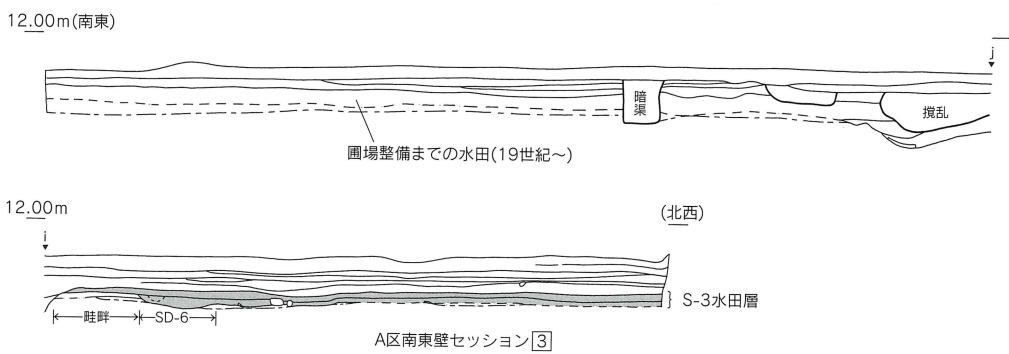
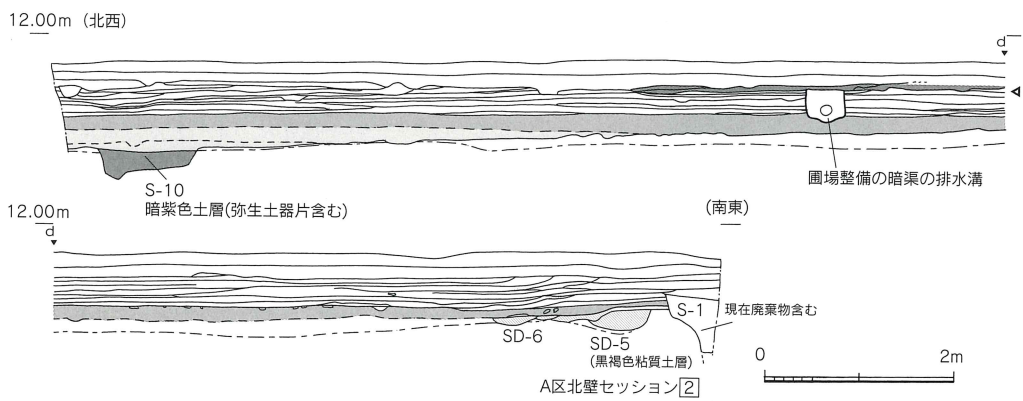
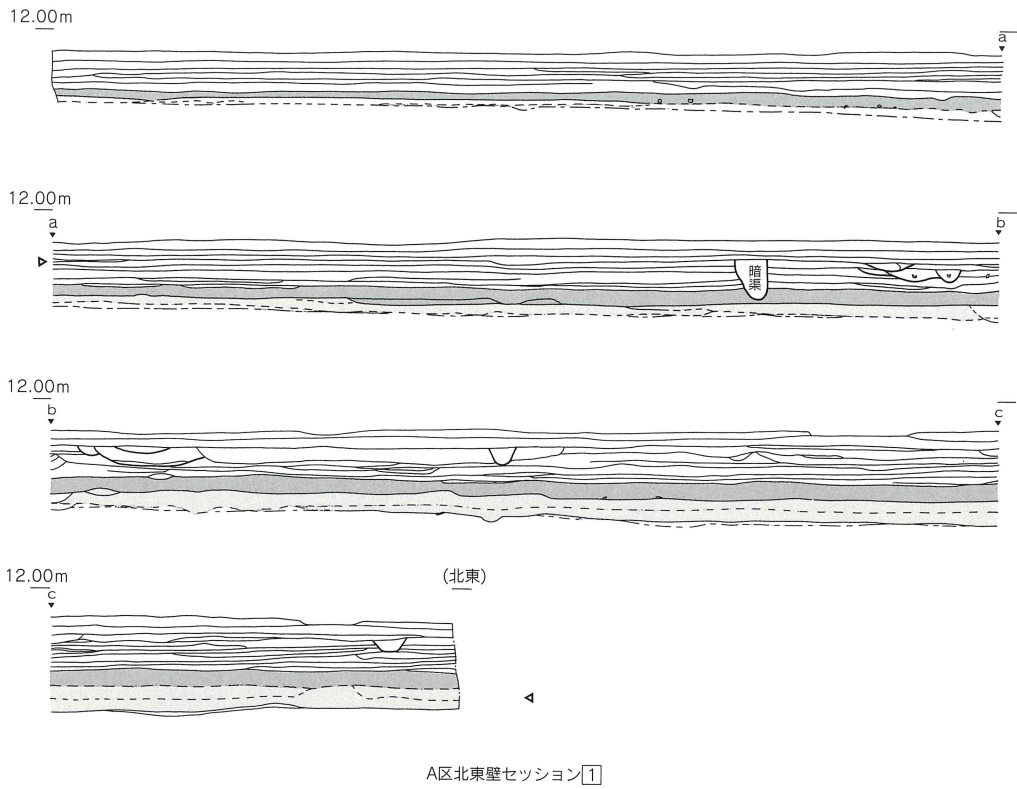
第2節 遺跡の概要

査はA地区からC地区の3ヶ所に分けて実施した。A地区では、中世以降の溝と水田跡が確認された。水路の中に土器(瓦器?、土師器?)の埋置が5箇所認められた。土器は正位に一個体ずつ置かれ、周辺あるいは上部に円礫を伴っている。掘り返しによって破碎している土器もあるので、水路を掘り直すたびに繰り返し土器の埋置がおこなわれたものと推定される。B地区とC地区は、ピットと土坑が1ヶ所ずつ出土したのみで明確な遺構はなかったが、下毛原台地が犬丸川の沖積地に向けて地山が傾斜する地点に立地しており、中世水田が確認された。

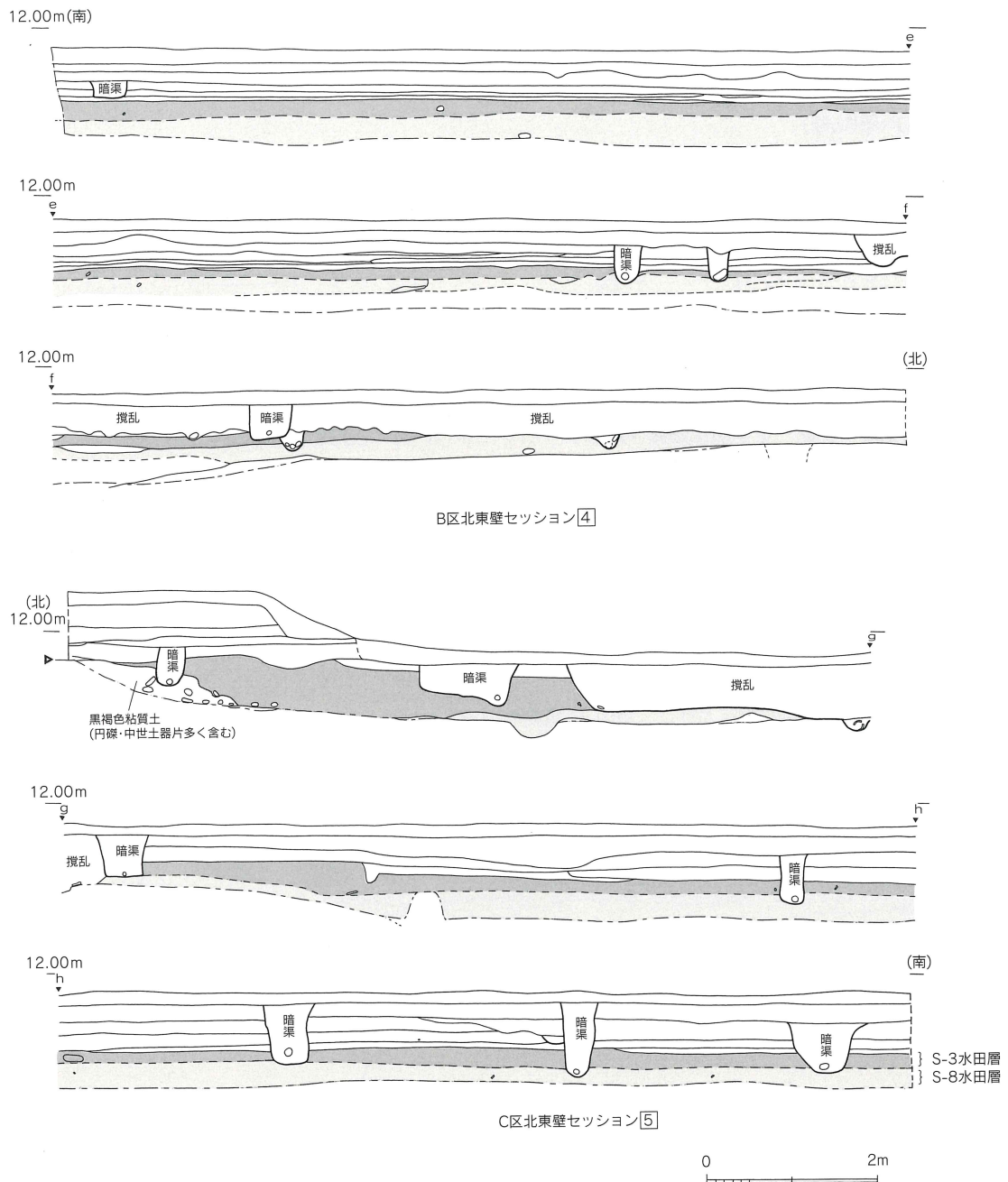
またA地区からC地区において、中世以後の遺構・包含層(水田)の中に奈良時代の須恵器がかなり含まれており、この付近に古代の集落が存在したことをうかがわせる。



第92図 馬下A区遺溝配置図(200分の1)



第93図 馬下遺跡土層断面図 その1 (80分の1)



第94図 馬下遺跡土層断面図 その2 (80分の1)

土層説明

- A区 第93図一段目の右端からS-8水田が広がり、五段目の中程でも始まりが認められるなど、S-8水田の広がりには限定的である。それに対して、S-3水田はほぼ全面に認められる。その上部は圃場整備前の複数枚の水田層が認められる
- B区 北側が段丘の落ち際にかかっている。しかし、この部分は上部を攪乱されており、S-3水田の始まりが厳密には確定できないが、図(第94図上から三段目)の中程であろう。基本的には全面にS-3、S-8水田が広がっており、上部には複数の圃場整備前の水田層から認められる。
- C区 北側から段丘の落ち際にかかっており、地山直上には中世の推積層がある。水田S-3、S-8はその推積層の南側から始まる。基本的には全面にS-3、S-8が広がる。S-3水田の直上には圃場整備直前の水田層がある。

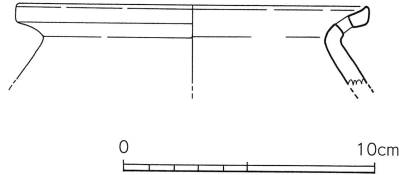
第3節 A区の遺構と遺物

1) 弥生時代

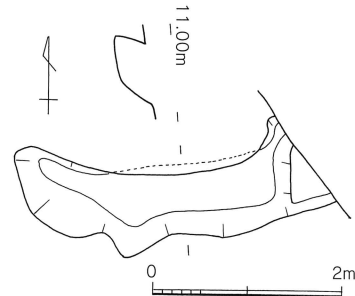
a 溝と出土遺物

SD-10 (第95図)

A区北西角部で確認された溝状の遺構で、唯一の弥生時代の遺構である。第96図1は小型壺の口縁部で、穿孔がある。



第96図 SD-10出土遺物 (3分の1)



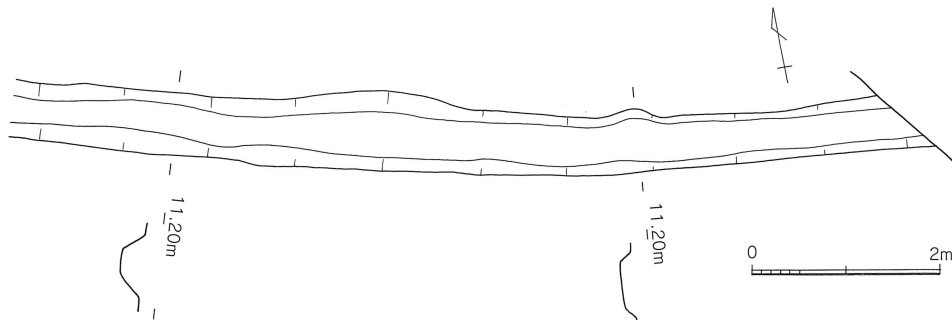
第95図 SD-10 (80分の1)

2) 中世

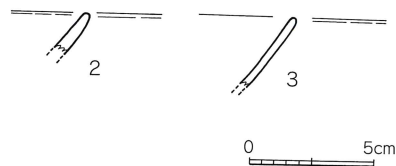
a 溝と出土遺物

SD-5 (第97図)

A区の北側を、ほぼ東西に直線的に伸びる溝で、幅0.5~0.7m、深さ0.2m、総延長21mを検出している。第93図の土層断面図に見るように、埋土は黒褐色粘質シルトで、SD-6に切られている。底面の標高はSD-6の方が高い。遺物は第98図2と3で、いずれも瓦器碗口縁部である。



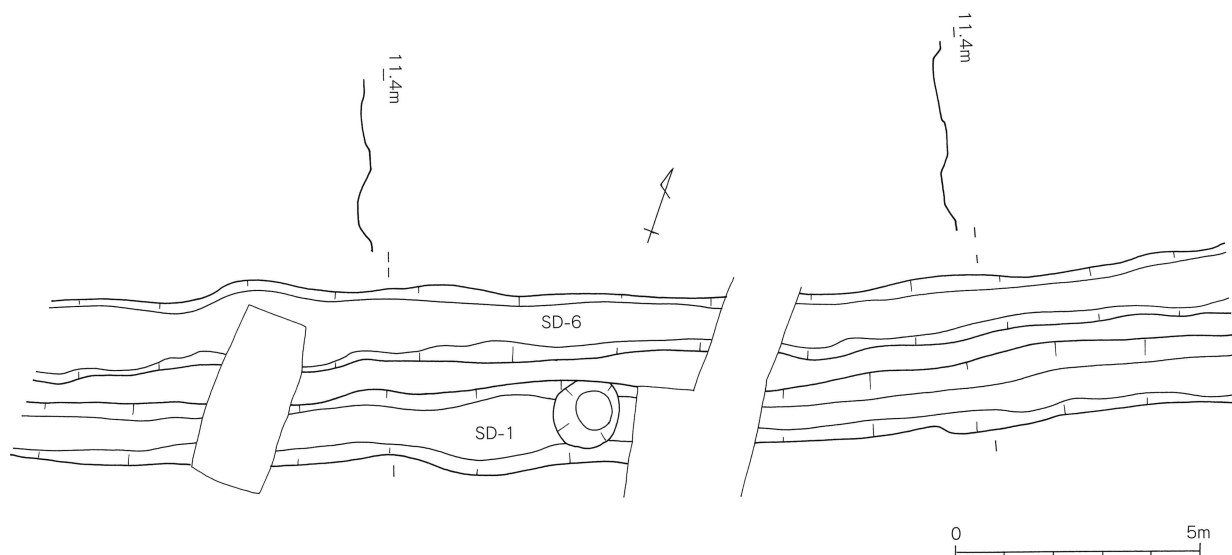
第97図 SD-5 (80分の1)



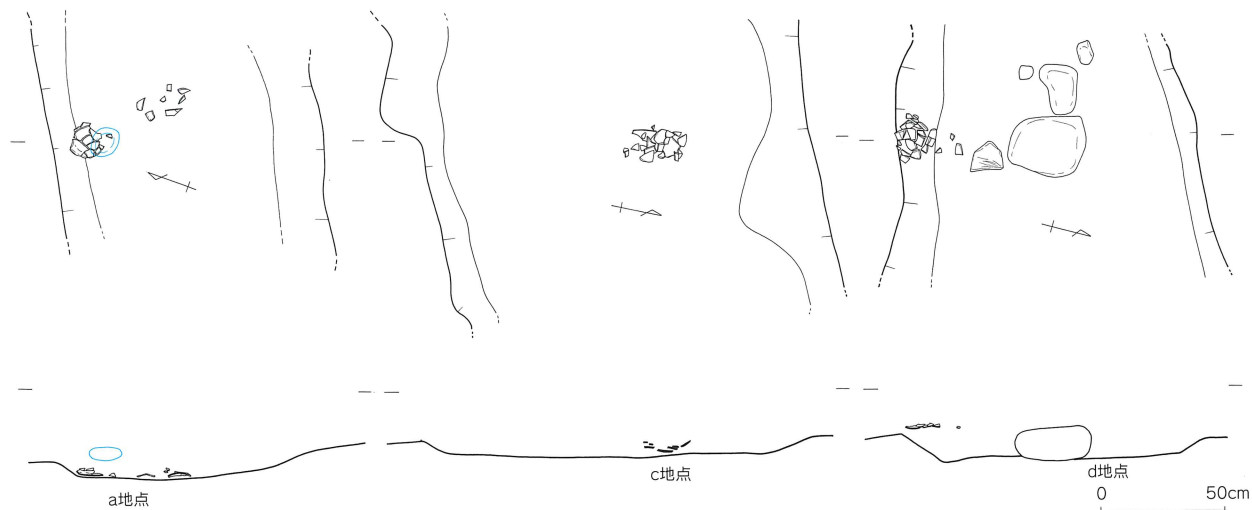
第98図 SD-5出土遺物 (3分の1)

SD-6 (第99図)

A区において、南西部から北東部に向けて延びる溝で、幅1.0~1.6m、深さ0.2m、総延長35.7mを検出している。底面の標高は調査区南端で11.09m、調査北端で10.92mと17cm北側の方が低い。つまり、南から北に向けて水流があったことがわかる。埋土にはS-3水田下層と同じ土壌が堆積しており、位置関係からも後述のS-3水田に伴うものと考えられる。



第99図 SD-6 (150分の1)

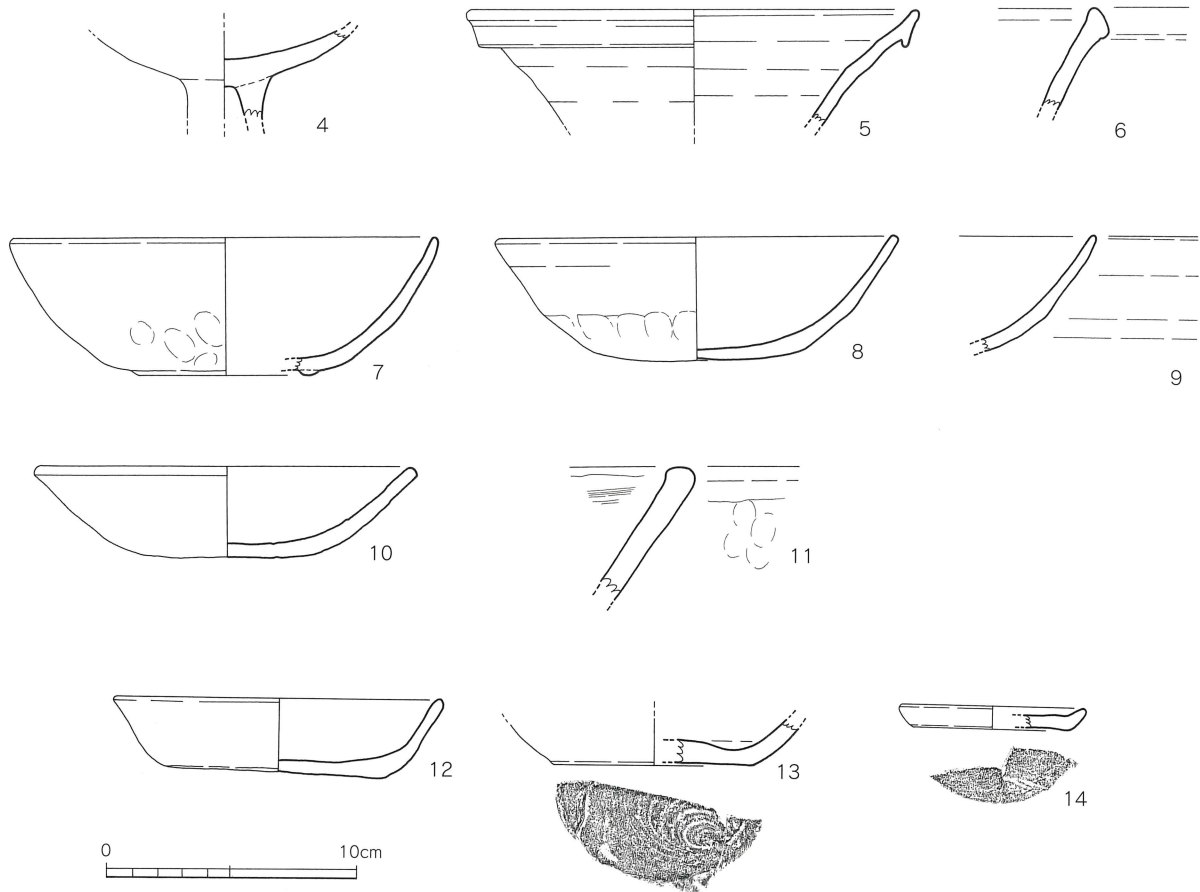


第100図 SD-6 瓦器碗出土状態 (30分の1)

注目されるのは、溝中の4ヶ所（第92図中のaからd地点）において、瓦器碗や土師器杯の完形品が据え置かれたような状態で出土したことである（第100図）。土器は正位に一個体ずつ置かれ、周辺あるいは上部に円礫を伴っている。掘り返しによって破碎している土器もあるので、くりかえし土器の埋置が行われたものと推定される。

出土遺物は第101図4から14である。4は須恵器高杯。56は須恵器壺、57は須恵器甕である。7から10は瓦質土器碗で、7の僅かに高台の残るものがb地点、高台の消えた8がc地点、同じく器高が低くなった10がd地点出土である。12は土師器杯で、a地点のものである。

瓦質土器の型式変化を見ても、土器の埋置は同時ではなく、ある程度時間をかけて継続的になされたことが想定される。



第101図 SD-6出土遺物 (3分の1)

SD-9 (第102図)

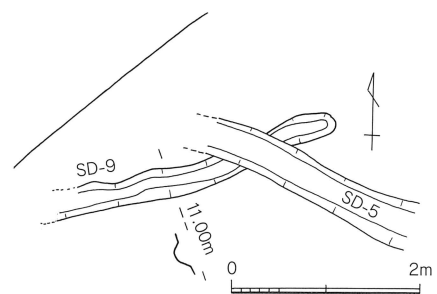
調査区北西部で検出された溝で、直接SD-5に切られており、遺物の出土はないものの中世の遺構の中では最も古く遡る遺構である。

b 水田と出土遺物

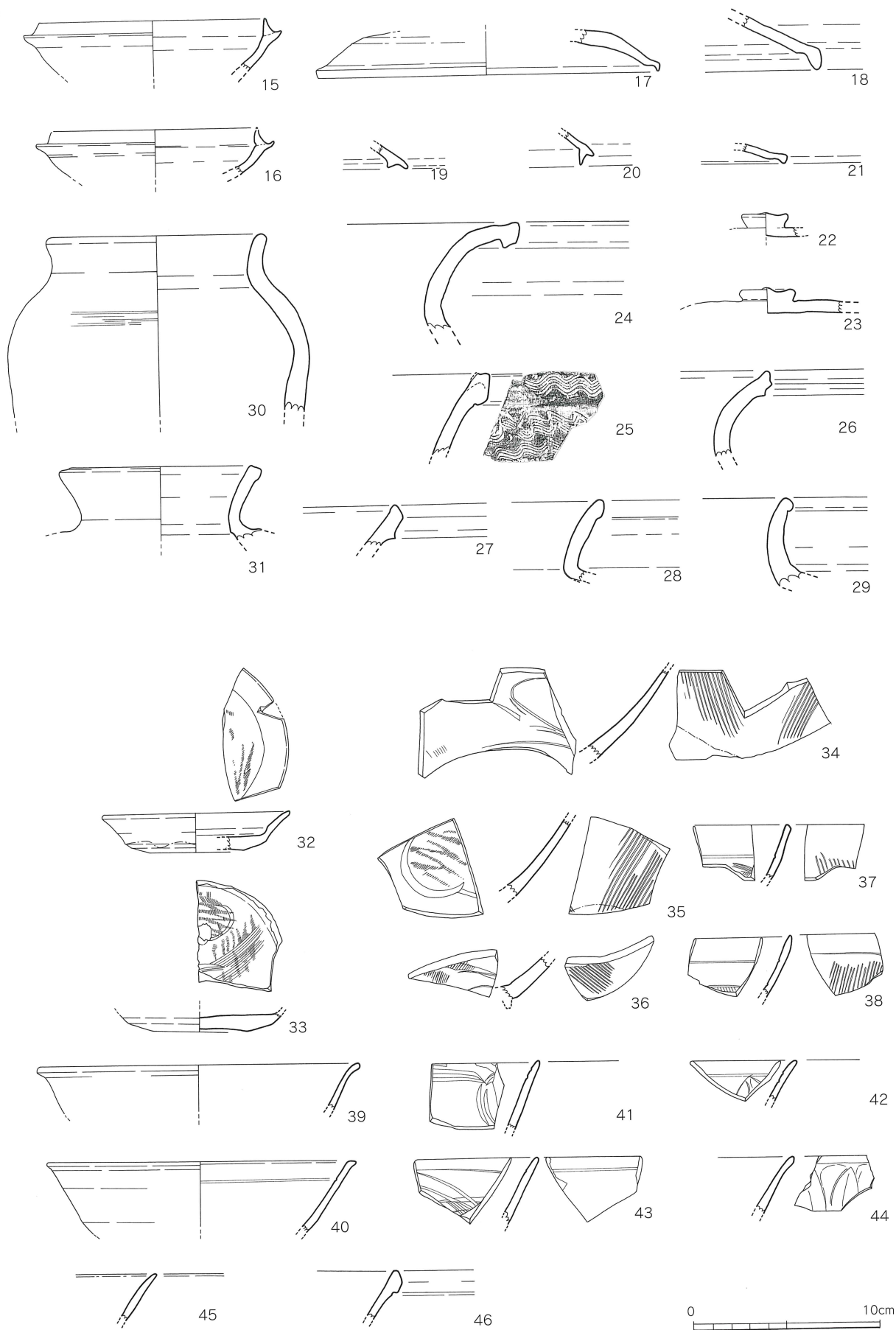
S-3

SD-5の上面を覆い、SD-6に接する位置で終わる水田である。その位置関係からSD-6がS-3水田に伴う水路であると考えられる。第93図の土層図でわかるように、S-3水田とした層は上下2層に分層でき、厳密には下層水田とSD-6が伴うことになり、外側には低い畦畔状の高まりも確認できた。上層はSD-6と畦畔状の高まりを越えて外側に広がっているが、後世の水路(圃場整備前まで使用)によって終わり方は不明となる。おそらく何らかの水路が存在したものと考えるが、確認できなかった。

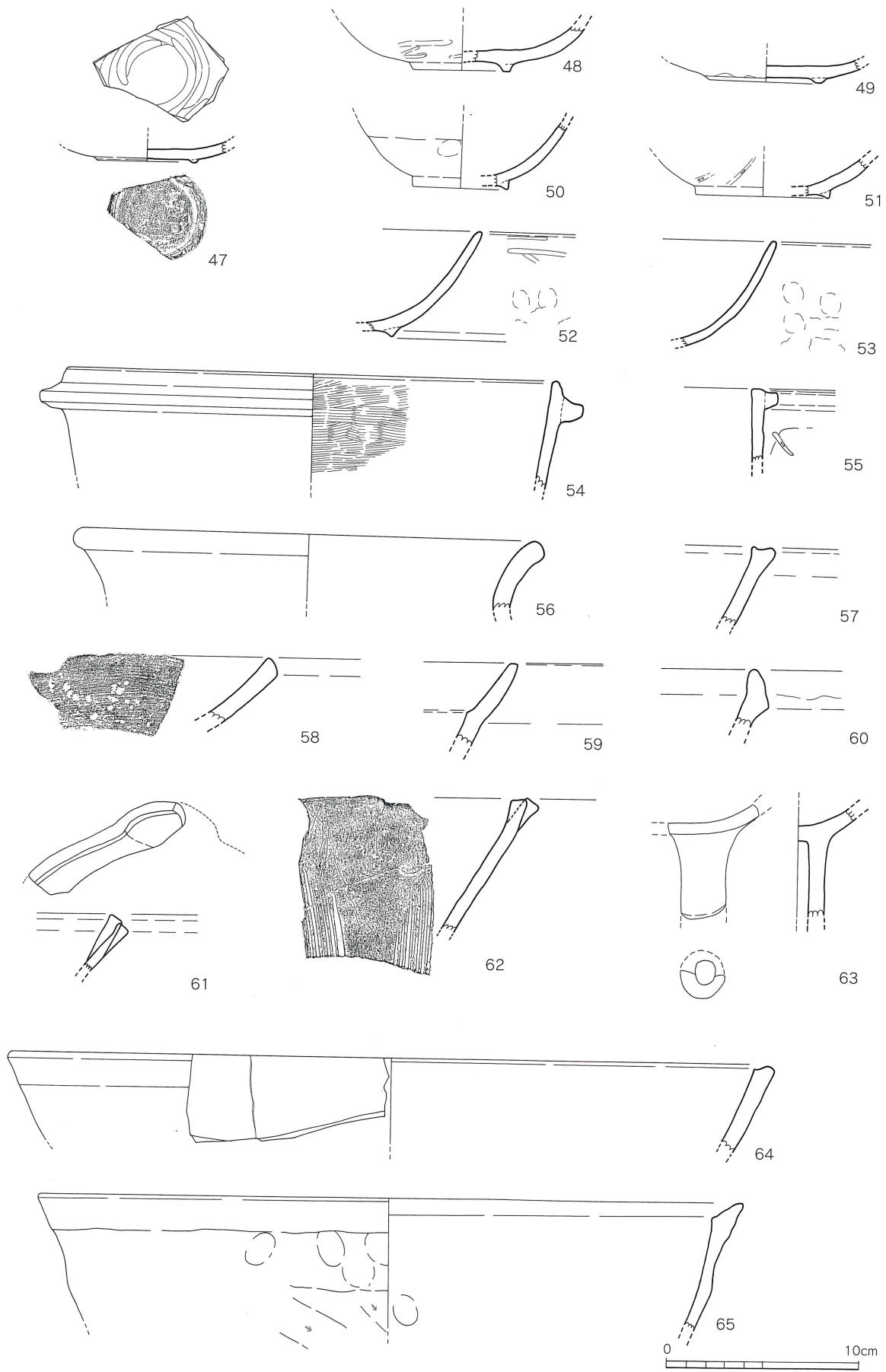
遺物は水田耕作土から多量に出土している。第103図15から第105図94である。15から29は須恵器、32から44は青磁、45と46は白磁、47から53は瓦質土器碗、54から63までは瓦質土器の鍋、鉢類、64から78は土師質の鍋、鉢類、80と81は土師器碗、82から88は土錘、89は砥石、90は真書の「天聖元寶」(北宋1023年)である。91から94は下層出土のもので、91の瓦器は高台がしっかりしている。



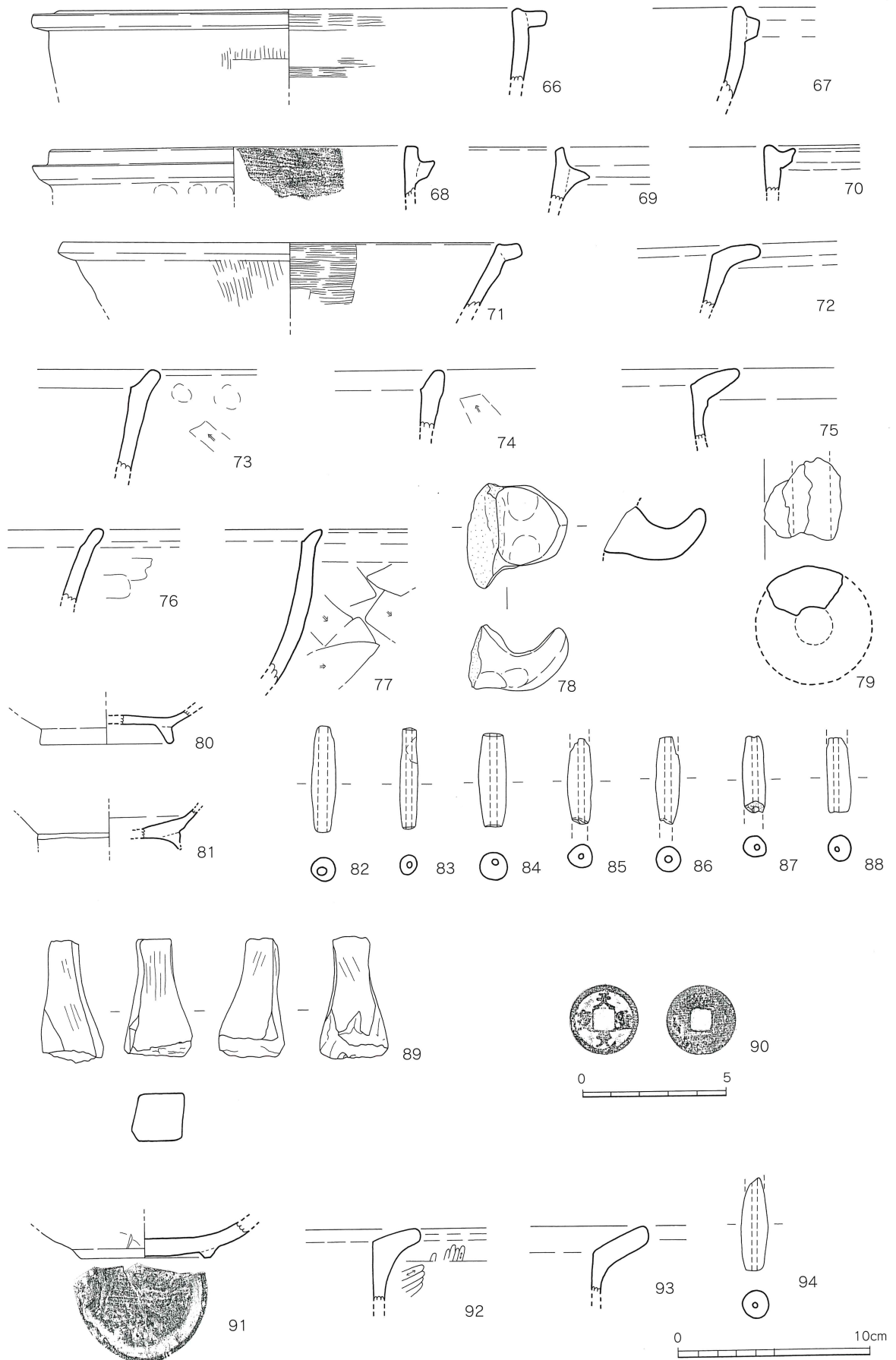
第102図 SD-9 (80分の1)



第103図 S-3出土遺物その1 (3分の1)



第104図 S-3出土遺物その2 (3分の1)

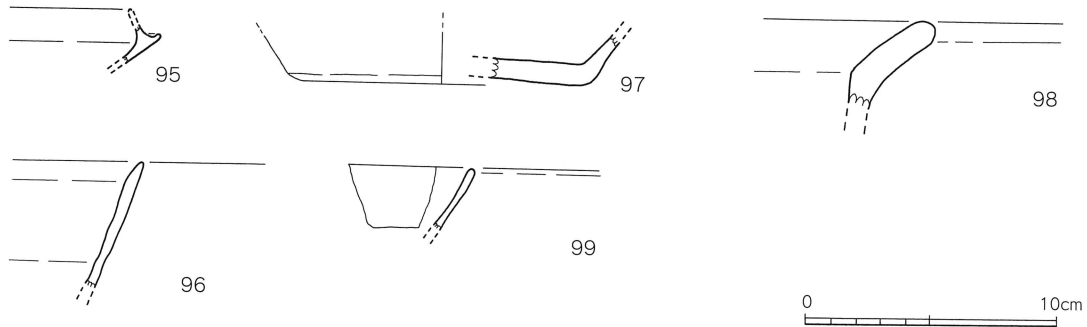


第105図 S-3出土遺物その3 (3分の1)

S-8 (第92図網掛け部)

S-3水田のさらに下層で確認された水田で、SD-5を切っていることから、SD-5とS-3の間の時期ということになる。北側の限界、あるいは西側の限界は土層断面図(第93図)でわかるように、10cm程度の立ち上がりが見られ、平面的にも第1089図の網掛け部のように確認できた。ただし、当該時期の水田がここで終わっていたというわけではなく、一段高い水田があった場合には、S-3水田の開削によって破壊されていたということになる。

遺物は第106図95から99である。95は須恵器杯、96は須恵器碗が、97は底部回転切り離しの土師器杯、98は土師器甕、99は瓦器である。古墳時代から古代の土器(95から98)も含まれるが、この水田の時期は99が示す13世紀である。



第106図 S-8出土遺物 (3分の1)

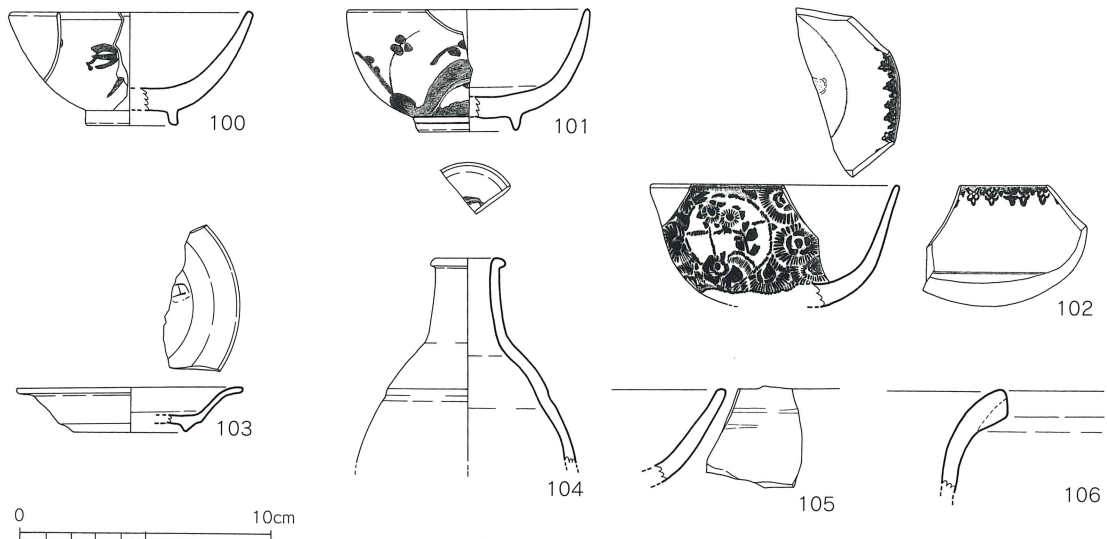
3) 近世以降

a 溝と出土遺物

SD-1

中世の水路であるSD-6に平行するように伸びる水路で、幅1.0~1.9m、深さ0.56m、総延長35mを確認している。溝底面の標高は南側で10.91m、北側で10.79mと北側が低い。圃場整備による水田が直上に乗っており、圃場整備前まで機能していた水路である。ただし、最下層からは近世の遺物が出土しており、水路の開削は最低でも近世に遡ることは確実である。

出土遺物は第107図100から106で、100は肥前染付で18世紀末から19世紀、101はいわゆる「くらわんか碗」、102は明治時代の型紙摺り、103は瀬戸美濃の白磁皿で19世紀中頃、104は高取系の徳利で19世紀代、105は肥前系陶胎染付で18世紀前半、106は土師質の鉢である

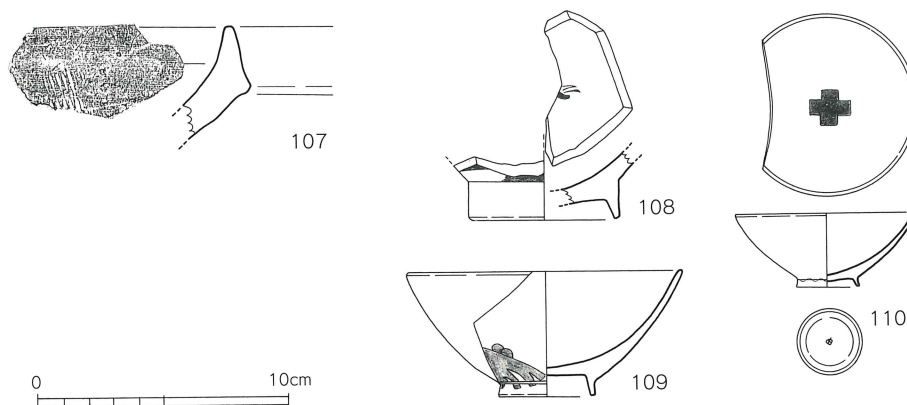


第107図 SD-1出土遺物 (3分の1)

b 水田と出土遺物

S-2

調査区全面に広がる水田で、圃場整備以前のものである。耕作土中から第108図107から110が出土している。107は備前焼播鉢、108は広東碗、109と110はそれぞれ瀬戸美濃系磁器で現代のものである。



第108図 SD-2出土遺物 (3分の1)

第4節 B、C区の遺構と遺物

1) 遺構

A区で確認された水田の広がり等を確認するために、B、C区を設定し掘下げを行った。遺構はB区で1ヶ所の柱穴、C区で1ヶ所の土坑が確認されたのみである。

水田は、A区のS-3水田とS-8水田に対応する水田跡が土層断面で確認されている。

2) 遺物

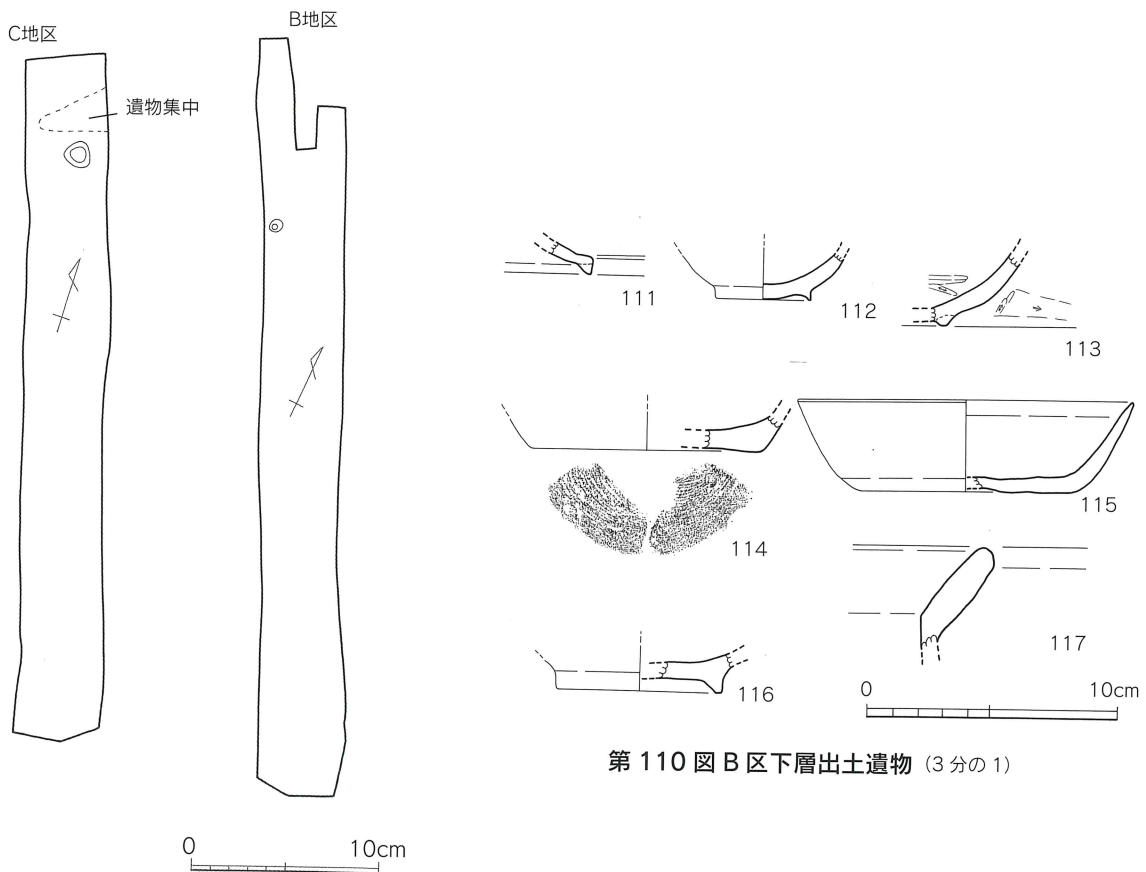
B区出土遺物は第109図111から117である。111は須恵器坏蓋、112と113は瓦器碗、114と115は土師器坏、116は土師器碗、117は土師器甕か。

C区出土遺物は第110図118から第112図160である。その内、118から134は出土層位不明の一括資料、135から141は上層、142から155は下層、156から160は下層で一括して出土したものである。118から122は須恵器、123は瓦器碗、124は瓦質の火鉢で胴部に多条突帯を廻らせるもの、125は瓦質の播鉢で内面見込みに花文の摺り目がある。126と127は瓦質の鍋、128と129は土師質土器鉢と甕、130から133は土師器碗、134は滑石製鍋。

135は須恵器坏身、136は須恵器坏蓋、137は須恵器壺、138から140は土師質土器で、それぞれ鉢、釜である。141は丸瓦である。内面には布目痕が認められる。

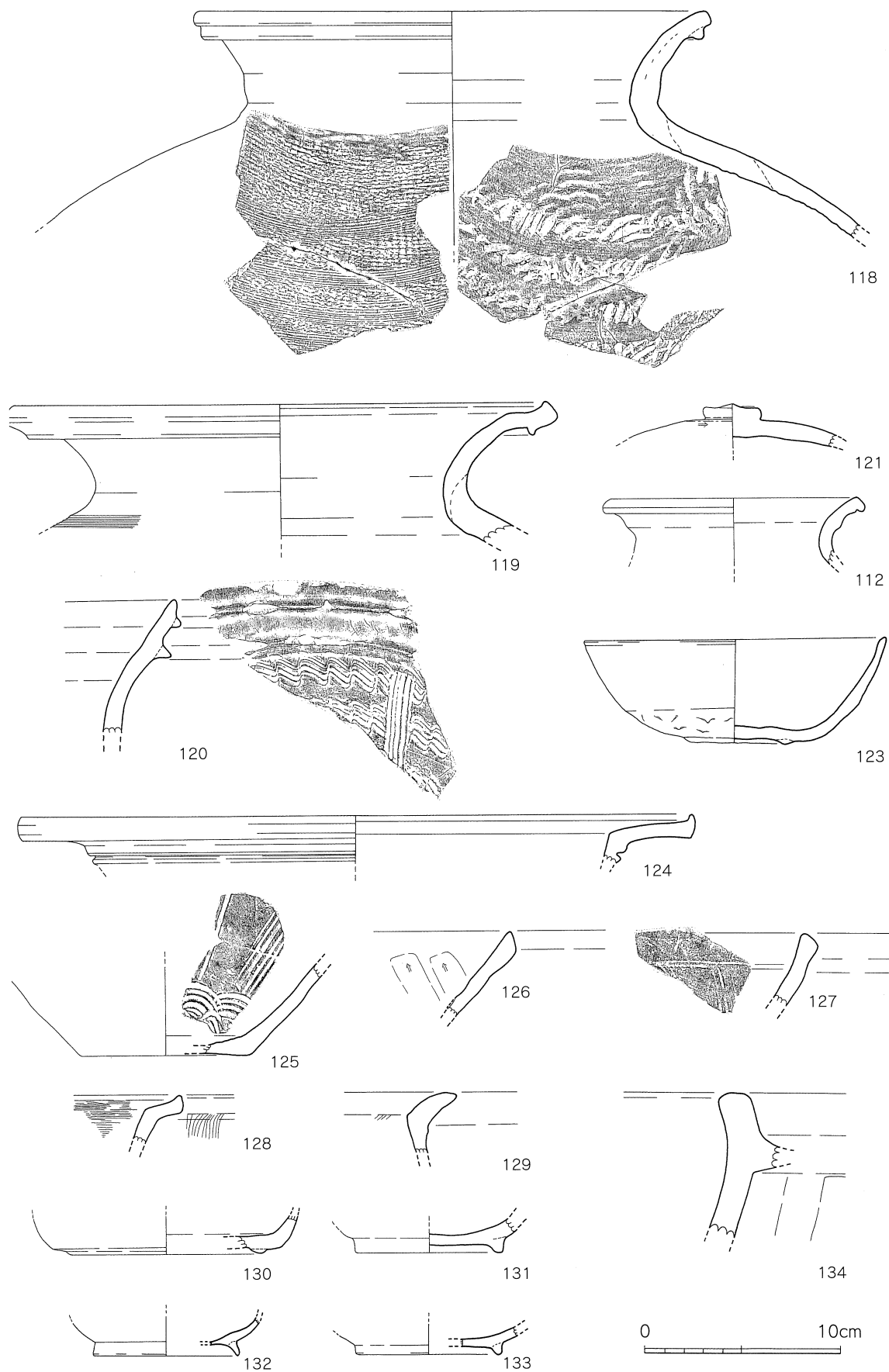
142から145は須恵器である。146は蓮弁を有する青磁碗、147は玉縁の白磁碗、148と149は瓦器碗。150から155は土師質土器の鉢、鍋、甕である。

156から160は須恵器で、160を除いて狭い範囲で集中して出土した。160はやや離れていた。

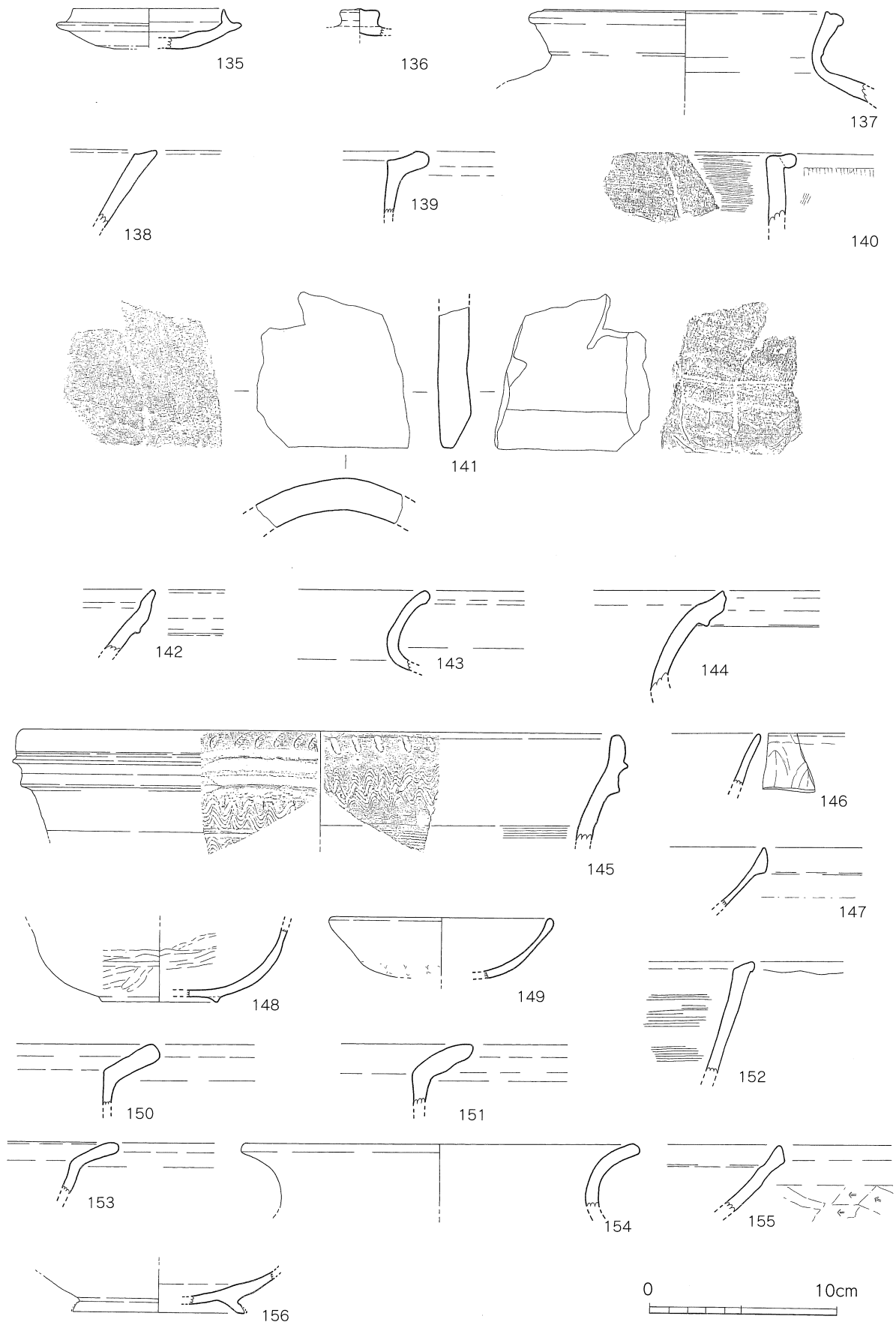


第110図 B区下層出土遺物 (3分の1)

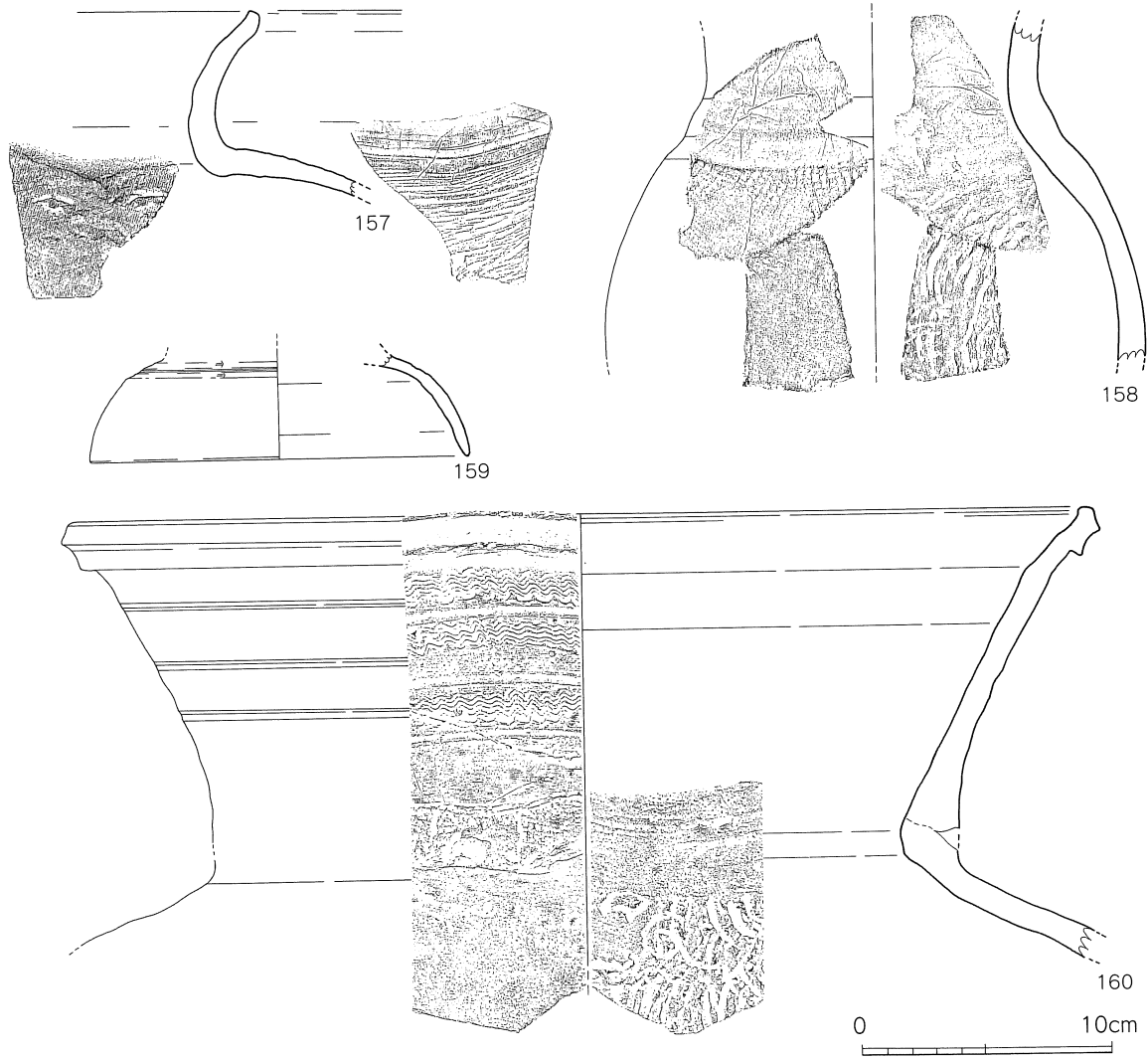
第109図 B、C調査区



第 111 図 C 区遺物集中区、トレンチ内西部出土遺物 (3 分の 1)



第 112 図 C 区西上層、西下層、西石集中出土遺物 (3 分の 1)



第 113 図 C 区遺物集中区出土遺物 (3分の1)

第5節 小結

馬下遺跡の北側200mに位置する北小枇杷遺跡では、包含層から弥生時代中期、古墳時代後期、古代、中世前期の遺物が出土している。馬下遺跡の時期と概ね重なるということが出来る。馬下遺跡は旧溜池跡のため、生活の跡を示す遺構は確認できなかったが、おそらく馬下遺跡と北小枇杷遺跡の間に挟まれた標高16～17mの下毛原台地上には、集落が存在したものと考えられる。

調査前の状況は昭和50年前後の圃場整備で新しく形作られた水田区画になっており旧状はうかがい知れなかったが、圃場整備前の地図と今回の調査区を重ねてみると、A区で確認された水路SD-1やSD-6とほぼ同じ位置には水路が流れていたことがわかる（第91図参照）。この水路は、遺跡の約1km西南西（上流側）に位置する犬丸川本流に掛かる「犬丸井堰」（長生橋の上流側）から伸びる水路で、遺跡の位置から北東に位置する犬丸地区に給水していた。仮にこの水路を「犬丸水路」と呼ぶと、この犬丸水路は井堰から揚水した後、左岸沖積地を流れ、「黒川」集落の所（田中橋北側）で下毛原台地に行く手を阻まれるため、台地にマブ（隧道）を掘って犬丸側に通水している。遺跡は、このトンネルを抜けてすぐの所にあたる。

通常、隧道を掘ってまで水路を通すのは近世以降のことであり、馬下遺跡で確認された水路が犬丸水路の前身であるとするれば、近世以前は川と台地の間に段丘が残り、そこを通過して犬丸に水を送っていたものと考えられる。後に川の浸食作用により段丘が消滅し、隧道を掘らざるを得なかったのであろう。

SD-6の時期が13世紀であり、犬丸水路の開削が鎌倉時代にまで遡ることを示唆するものであろう。
参考文献『北小枇杷遺跡・野田遺跡』大分教育庁文化財センター2007

第7章 まとめ ～下毛原台地の開発と遺跡～

山国川下流域右岸に広がる平地は、西から東に沖積地の「沖代平野」、洪積台地の「下毛原」、「長峰原」沖積平野上部の「四日市平野」と続いている。そして、下毛原と長峰原の間に犬丸川が流れ、狭小な平野を作っているのである。今回の中津日田道路は、下毛原を南北に抜けた後犬丸川を渡り、一部長峰原をかすめた後に山に向かうもので、それに伴う発掘調査は下毛原の歴史の一端を明らかにするというものであった。以下では、下毛原台地の水田開発に係わる歴史に焦点を絞って略述してみたい。

溜池灌漑

第114図は明治33年作成の地形図である。この段階の土地利用状況を見てもわかるように、下毛原台地上は基本的に畑地であり、谷頭に作られた溜池から引水する谷間に水田が展開しているのであった。しかも、この状況は、江戸時代の享保2年（1685）に着工し、元禄2年（1689）に完成した80町歩弱を潤す荒瀬井堰の水路が下毛原台地を貫通した後の状況であり、荒瀬井堰開削以前はさらに水田面積が少なかったはずである。

つまり、近世前期までの状況は、上畑成遺跡や田代遺跡の水路に示されるように、水源として谷頭に溜池を拵え、そこから台地上に水を揚げて水田を作る、いわゆる溜池灌漑による水田が主体であったと考えられる。上畑成遺跡や田代遺跡の溝は、16世紀代には確実に掘削されており、溜池（この場合は「から池」）の造りが戦国期に遡るのは確実である。しかも、上畑成遺跡では古代に遡る溝も確認されており、溜池灌漑がさらに遡る可能性も考えられる。この下毛原の最も奥（標高が高い地点）にある御澄池の堤が、発掘調査によって17世紀中頃の築造が想定されていることを考慮すると、上畑成遺跡の水路が溜池灌漑に係わることも十分可能性を有していると考えられる。今後の調査によって確定が期待される点である。

井堰灌漑

馬下遺跡では、圃場整備前の水路にほぼ重なる形で中世前期に遡る水路が検出された。馬下遺跡の立地する地点は、下毛原台地が犬丸川によって開析され、沖積地に向かって緩傾斜をなすところであり、台地上の上畑成遺跡等と立地条件を異にする。ここで検出された水路の水源は溜池ではなく、河川に架かる井堰である。現在の井堰（前田井堰）は馬下遺跡の1km西南西上流にあり、犬丸地区に配水するものである。水路は井堰から揚水した後、左岸沖積地を流れ、「黒川」集落の所（田中橋北側）で下毛原台地に行く手を阻まれるため、台地にマブ（隧道）を掘って犬丸側に通水している。おそらく、犬丸川が蛇行して「黒川」の台地にぶつかるために段丘が削られ、現在のようなトンネルを掘削することになったものであろう。

すなわち、犬丸川本流からの井堰灌漑は少なくとも鎌倉時代には始まっていたとすることができよう。しかし、その水を下毛原台地の上に乗せることは比高差がありすぎてできなかった。このことから、下毛原台地の水田が多くが溜池灌漑に頼り、さらにその水の少なさを補うために耶馬溪からわざわざ10km近くも水路を引き、山国川本流の水を揚げるという大土木工事を行わざるを得なかったのである。

では、犬丸川の井堰灌漑が中世以前に遡り得ないかというところではない。馬下遺跡と犬丸川を挟んで対岸の沖積平野にある伊藤田中遺跡（平成18年度調査、未報告）では、条里を潤す古代の水路が検出されている。この水路の水源は、水路の方向から考えて犬丸川と考えられる。現在条里地区（圃場整備により景観的には消滅）への配水を行う水路は犬丸川の「前田井堰」から分けてもらっているが、以前は「前田井堰」のすぐ下流側にあった「田中井堰」から取水していた。この水路が伊藤田中遺跡で検出された古代の水路を踏襲していることが想定できる。つまり、沖積平野への給水では犬丸川本流の井堰灌漑が古代から行われていた可能性が高いのである。

そう考えられるとすると、古代から中世の下毛原台地は基本的に畑卓越地帯であり、犬丸地区のように台地末端のやや低い場所では犬丸川本流からの河川灌漑による水田が開かれてはいたものの、基本的には台地を浸

食する小さな開析谷の谷頭の溜池灌漑で狭小な水田を経営する時代が長く続いたとすることができよう。この状況はさらに遡って古墳時代や弥生時代も大きくは変わらなかったと考えられる。むしろ、この時代に属する水路の検出が無かったことから考えて、溜池灌漑も古代以降に活発に行われるようになったものかもしれない。

集落の立地と展開

古代から中世の集落は、今回の調査地区内では確認されなかった。しかし、水路内などから多くの該期の遺物が出土している。至近に集落が展開していたことを窺わせる。現在の集落はいずれも下毛原台地の縁辺部にほぼ等間隔に展開している。逆に台地内部の平坦地は耕作地として利用されていたのであろう。このような景観が成立したのは中世の後半期であり、中世前半期以前の状況は不明である。

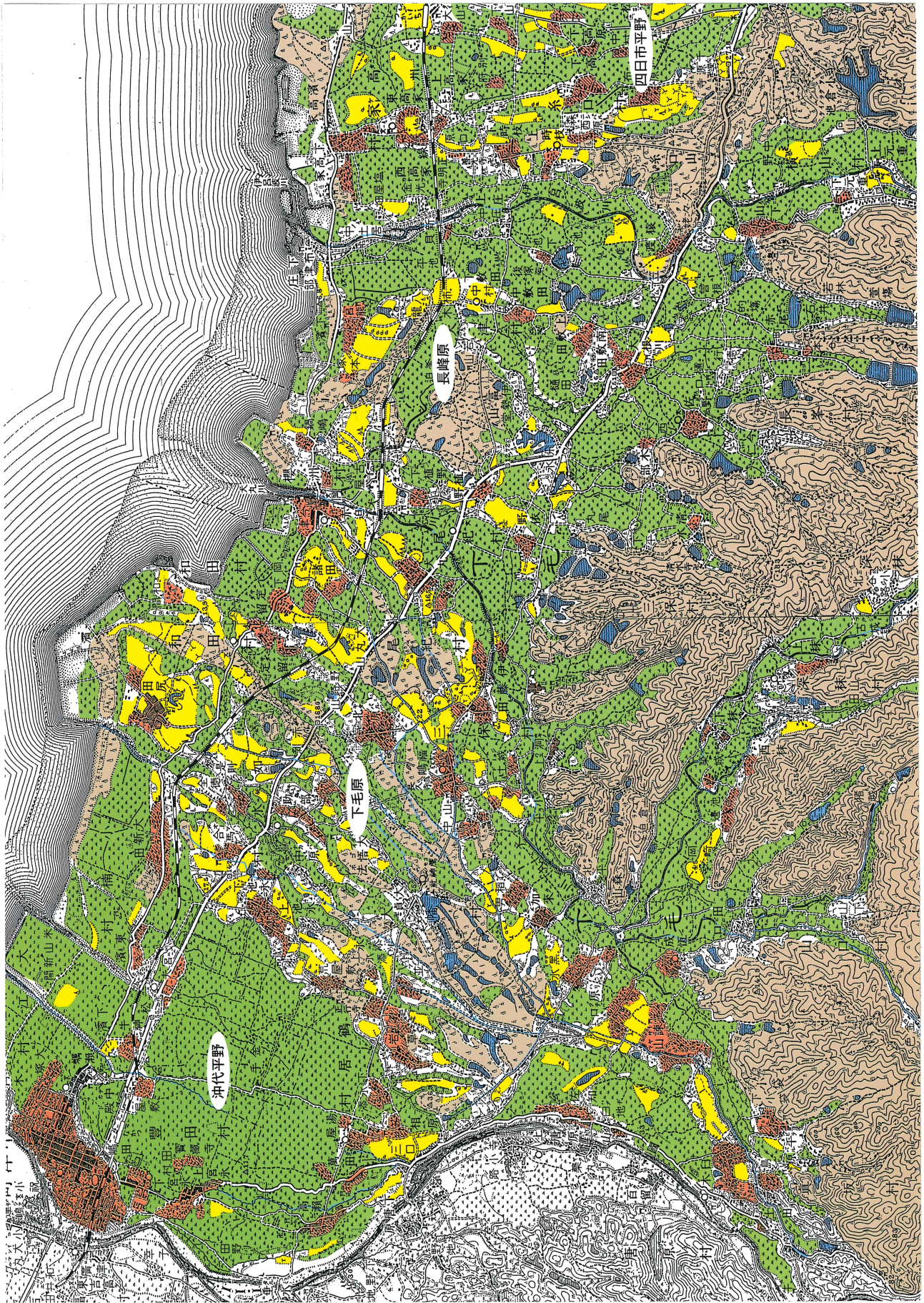
では、大規模な水田の開削を期待できない古墳時代はどうだったのであろうか。田代遺跡や諸田南遺跡、野田遺跡で発掘され、さらに定留遺跡や諸田遺跡で確認されているように古墳時代集落は台地の広範囲に大規模に展開していることがわかってきた。それらには大量の蛸壺や蛸壺焼成坑が伴うことからわかるように、海との関係を有していたのは明らかであり、畑作と漁業が主体であった。しかし、さらに想像をたくましくすれば、下毛原台地の犬丸川を挟んで南側の丘陵先端部に展開する須恵器窯の製作工人の居住地に比定することもできるのではなかろうか。

諸田南遺跡出土の須恵器は、その多くが白っぽく軟質に焼けた焼成不良品であった。さらに海岸に近い遺跡ではその割合は下がるようであり、そのことが須恵器供給体制の問題なのか、須恵器工人の居住にかかわる問題なのか即断はできないものの、今後詰めていく必要のある課題である。

さらに遡って弥生時代になると、田代遺跡で住居跡と貯蔵穴が確認され、馬下遺跡で溝状の遺構が確認されているが、大規模な集落跡は確認されていない。むしろ、中・小河川を望む台地南側の丘陵部に集落が立地している。開発が個別小規模なものであったことを示しているよう。

縄文時代は、早期に比較的広い範囲で遺構が確認される。遺構は大きく2種類に分けられる。一つは陥穴であり、一つは焼土坑である。陥穴は諸田南遺跡D地区のみであったが、さらに北側の定留遺跡でも確認されている。焼土坑は集落に伴うものであり、田代遺跡と上畑成遺跡で検出された。

中津道路の調査は、平坦な下毛原台地を南北に縦断するものであったが、旧石器時代から近世に至る遺物、遺構が確認された。台地上の開発と利用状況の変遷の概略は上記のようであるが、今後は大規模な調査が進んでいる犬丸、諸田、定留地区での調査成果が明らかになった段階で、さらに詳細な検討が必要となろう。



第 114 図 下毛原台地土地利用状況

(明治 33 年作製地形図に加筆)

第2表 遺物観察表(その1)

諸田南遺跡D地区出土遺物観察表

土器・陶磁器類

遺物番号	図版番号	出土地点	種別・器種	法量		器形・成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
001	11	SH-6	須恵器	(14.0)		ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナデ、外面ヘラ記号	良好	砂粒やや少ない	黄灰白色	
002	11	SH-6	須恵器	(13.0)		ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナデ	良好	角閃石少し	黄灰白色	
003	11	SH-6	須恵器	12.4	3.6	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナデ、内面ヨコナデ後ナデ、外面ヘラ切り	良好	角閃石、長石やや少ない	灰黄白色	
004	11	SH-6	須恵器	(12.6)		ロクロ調整	ヨコナデ、外面ヘラケズリ	不良	角閃石、長石少し	黄褐色	
005	11	SH-6	須恵器	(11.6)		ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ヨコナデ、外面ヘラケズリ	良好	長石少し	黄灰色	
006	11	SH-6	須恵器	(14.0)		ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ヨコナデ、外面ヘラケズリ	不良	角閃石、長石やや少ない	黄黒灰褐色	
007	11	SH-6	須恵器	底径(8.0)		摩耗・底部剥離のため不明	ナデ?	良好	角閃石、長石やや多い	橙褐色	全体的に摩耗
008	11	SH-6	土師器			口縁部が緩やかに開く	ヨコナデ、ナデ(外面は摩耗)	良好	砂粒多い	橙褐色	
009	11	SH-6	土師器	(19.4)		くの字に折れ開く口縁部	ヨコナデ、外面ナメハケ後ヨコナデ	良好	角閃石、長石、石英多い	黄灰褐色	
011	13	SK-3	須恵器	(10.8)	3.6	ロクロ調整	ヨコナデ	不良	角閃石、長石、石英やや多い	黄橙褐色	
012	15	SK-5	須恵器	(12.2)	3.95	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナデ、外面ヘラケズリ	良好	砂粒少ない	青灰褐色	
013	15	SK-5	須恵器	(9.4)		ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ヨコナデ、外面ヘラケズリ、ヘラ記号	良好	角閃石、長石やや少ない	黒灰褐色	
014	15	SK-5	須恵器	(13.6)		ロクロ調整	ヨコナデ	不良	角閃石、長石多い	黄灰白色	
015	15	SK-5	須恵器	(10.2)		ロクロ調整	ヨコナデ、外面ヘラケズリ	不良	角閃石、長石やや多い	灰橙褐色	
016	15	SK-5	須恵器	(11.2)	6.0	ロクロ調整 脚部端部外上方につまみあげる	ヨコナデ、坏部外面ヘラケズリ	良好	角閃石、長石やや少ない	灰黄褐色	
017	15	SK-5	須恵器	底径(11.8)		ロクロ調整 脚部端部外上方につまみあげる	ヨコナデ	不良	角閃石、長石やや少ない	白灰黄色	
018	16	SK-5	須恵器			ロクロ調整 口縁部は外方向突帯状に突出	ヨコナデ	良好	角閃石、長石やや少ない	青灰白色	
019	16	SK-5	土師器			顔み上げ	ナデ、口縁部ヨコナデ、外面タテメハケ後ナデ	良好	角閃石、長石多い	黄灰褐色	
021	16	SK-11	須恵器	(11.8)		ロクロ調整	ヨコナデ	良好	角閃石、長石やや少ない	黄灰褐色	
022	16	SK-11	須恵器	底径10.6		ロクロ調整、水引き痕跡あり	回転ナデ	良好	砂粒少ない	灰褐色	
023	16	SK-11	土師器			直線的に外傾	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハケ、外面タテメハケ後ヨコナデ	良好	長石、石英多い	淡黄褐色	外面に黒斑あり
024	16	SK-12	須恵器	(13.2)	3.7	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナデ、天井部ヘラケズリ、ヘラ記号	良好	砂粒やや少ない	黄灰色	
025	16	SK-12	須恵器	(10.2)		ロクロ調整	ヨコナデ、外面ヘラケズリ	良好	角閃石、長石やや少ない	黄青灰色	
026	16	SK-12	須恵器	底径(9.4)		ロクロ調整	ヨコナデ、坏部外面ヘラケズリ、坏部内面ヘラ記号	良好	石英やや少ない	黄灰白色	
027	16	SK-12	土師器	(30.6)		外面指・工具での押さえによる把手接合痕跡	口縁部ヨコナデ、内面ナデ後ヘラケズリ	良好	角閃石、長石、石英多い	暗橙褐色	外面に黒斑あり。28と同一個体か
028	16	SK-12	土師器			甕の把手部。甕胴部との接合痕跡あり	指ナデ、ヘラケズリ	良好	角閃石、長石、石英多い	黄褐色	外面に黒斑あり。27と同一個体か

土錘

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
010	11	SH-6	土錘	素焼き		2.0	棒状土錘 焼成前穿孔あり
020	15	SK-5	土錘	素焼き	8.6	1.7	棒状土錘 完形
029	15	SK-12	土錘	素焼き			棒状土錘

第3表 遺物観察表(その2)

田代遺跡出土遺物観察表

土器・陶磁器類

遺物番号	図版番号	出土地点	器種	法量		器形、成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
001	28	S-33	縄文土器			直線的に伸びる口縁部	ナテ、無文	良好	角閃石、石英少ない	橙色	
002	28	S-33	縄文土器			口縁端部で小さく外反する	ヨコナテ、無文	良好	角閃石少ない、石英わずか	にぶい黄褐色	
003	28	S-33	縄文土器			直線的に伸びる口縁部	ナテ、無文	良好	角閃石多い、石英少ない	橙色	
004	28	S-33	縄文土器			丸底	ナテ、無文	良好	角閃石、長石少ない	橙色	
005	28	S-52	縄文土器			口縁端部で小さく外反する	内面指圧痕、ヨコ方向ナテ、外面ナテ、無文	良好	角閃石、長石多い	淡橙黄褐色	
006	28	S-52	縄文土器			直線的に伸びる口縁部	内面ヨコ方向ナテ、外面ナテ、無文	良好	角閃石、長石多い	黄褐色	
007	28	S-52	縄文土器			口縁端部で小さく外反する	ナテ、無文	良好	角閃石少ない、石英わずか	橙色	
008	28	S-52	縄文土器				ナテ、無文	良好	角閃石多い、砂粒少ない	橙色	
009	28	S-52	縄文土器				内面指圧痕、ヨコ方向ナテ、外面ナテ、無文	良好	角閃石、長石多い	茶黄褐色	
015	31	S-34	弥生土器鉢	(22.4)		口縁部がくの字状に折れ開く	剥離のため不明	良	角閃石多い、長石少ない	茶褐色	
016	31	S-34	弥生土器壺	底径(5.3)		平底	ナテ、外面ナテ後ナメハケ	良好	角閃石多い、石英少ない	橙色	
017	31	S-34 上層	弥生土器	底径(4.2)		平底	ナテ	良好	角閃石少ない、長石多い、石英わずか	黄褐色	
018	31	S-34	弥生土器	8.4	3.4	小さな平底を持つ	ナテ	良好	角閃石少ない、長石わずか	橙色	
019	31	S-34	弥生土器				内面ヨコハケ、外面ヘラケズリ後ナテ	良好	角閃石少ない、長石多い	淡茶褐色	
021	33	S-16	弥生土器甗	(26.8)		口縁部跳ね上げ、内面指圧痕あり	ヨコナテ、内面ナテ、外面タテハケ	良	角閃石、長石、砂粒多い	暗黄褐色	器面剥離きみ
022	33	S-16	弥生土器甗	底径(7.6)		強く踏ん張る平底	内面指圧痕、ナテ、外面タテハケ	良	角閃石、長石多い	暗褐色	内面、外面スス付着
023	33	S-16	弥生土器甗	底径(7.2)		強く踏ん張る平底、内面・底面指圧痕あり	内面ナテ、外面タテハケ、ヨコナテ、底面指ナテ	良好	角閃石、長石多い	赤橙褐色	内面スス付着
024	33	S-16	弥生土器甗	底径(6.8)		厚手の底部、内面指圧痕あり	内面ナテ、外面タテハケ、ヨコナテ、底面ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	黄橙褐色	
025	33	S-16	弥生土器甗	底径(7.0)		厚手の底部	内面・底面ナテ、外面タテハケ	良好	角閃石、長石多い	黄橙褐色	
026	33	S-16	弥生土器甗				内面ナテ、外面タテハケ	良好	角閃石、長石多い	橙褐色	
030	35	S-1	須恵器環	12.2	3.6	ロクロ調整	ヨコナテ、内面ヘラ記号、底部回転ヘラケズリ後ヘラナテ	不良	角閃石、長石、砂粒少ない	白灰褐色	
031	35	S-1	須恵器環	(12.3)	4.0	ロクロ調整	ヨコナテ、底部回転ヘラケズリ	良好	角閃石、長石、砂粒少ない	灰褐色	
032	35	S-1	須恵器環	12.0	3.6	ロクロ調整	ヨコナテ、底部回転ヘラケズリ	良好	角閃石、長石、砂粒やや少ない	白灰褐色	
033	35	S-1	須恵器環	12.2	3.5	ロクロ調整	ヨコナテ、底部回転ヘラケズリ(右回転)	良好	角閃石、長石、砂粒少ない	灰黄褐色	
034	35	S-1	須恵器鉢	(19.0)	11.2	ロクロ調整、脚部に3段に円形の穿孔あり	ヨコナテ、坏部外面カキ目、脚部内面ヘラケズリ	良好	角閃石、長石、砂粒少ない	黄灰色	
035	35	S-1	須恵器	底径(8.4)		ロクロ調整	ヨコナテ	良好	砂粒、角閃石少ない	白灰色	
036	35	S-1	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒、長石少ない	淡灰白色	
037	35	S-1	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	淡灰色	
038	35	S-1	須恵器	(10.0)		ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、砂粒少ない	黒灰褐色	
039	35	S-1	土師器甗	(27.5)		緩やかに開く口縁部	ヨコナテ、内面ナテ後ケズリ、外面ナテ	良好	角閃石、石英多い	橙色	
040	35	S-1	土師器甗	最大胴部径(23.4)			ナテ後ナメハケ、指圧痕あり内面ナテ後ヨコハケ、外面ナテ	良好	砂粒、石英少ない	淡黄色	
041	35	S-1	土師器甗			緩やかに開く口縁部	内面ナテ後ケズリ、外面ナテ	良好	角閃石、石英多い	橙色	
042	35	S-1	土師器甗			強く折れ開く口縁部	内面ヘラケズリ後ヨコナテ、外面横ハケ後ナテ	良好	角閃石、長石多い	明赤褐色	
047	37	S-3	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	暗灰色	
048	37	S-3	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	角閃石微量	淡黄灰色	
049	38	S-41	土師器				内面ナテ、外面タテハケ、ナテ	良好	角閃石、長石多い	暗褐色	
050	38	S-10	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	淡黄灰色	
051	42	S-2	須恵器			ロクロ調整、脚部にスカシあり	ヨコナテ、内面ナテ、沈線、カキ目?ヘラケズリ、スカシ切り面?	良好	角閃石、長石、砂粒少ない	灰褐色~黒褐色	
052	42	S-2	須恵器	(12.2)	6.2	ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石、砂粒少ない	黄青灰色	

遺物番号	図版番号	出土地点	器種	法量		器形、成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
053	42	S-2	須恵器			ロクロ調整	内面ヨコナテ、外面回転ナテ	不良	砂粒少ない、 角閃石多い	白灰色	
055	B区	S-15				ロクロ調整	内面回転ナテ、灰釉、外面ケズリ後ナテ、露胎	良好		灰オリーブ色 ～灰黄褐色	
056	B区	S-15	陶器	(10.8)		ロクロ調整	口縁部を除く見込、高台胎は露胎	良好	黄褐色		
057	B区	S-15	陶器?	(11.4)		ロクロ調整	施釉 貫入	良好	褐色		
059		S-15	須恵器			ロクロ調整、タタキ成形	ヨコナテ、内面同心円当て具痕、 外面カキ目、平行タタキ	不良	砂粒少ない	黄灰白色	同心円当て具、 平行タタキ板使用
060	B区	S-15				ロクロ調整、タタキ成形	回転ナテ、内外面タタキ目残る		砂粒少ない	灰色	同心円当て具、 格子目タタキ板使用
061		S-15	須恵器			ロクロ調整	ヨコナテ	不良	砂粒少ない	黄灰白色	
062	B区	S-15	瓦質土器				ヨコナテ、ナテ、突帯あり	良好	角閃石少ない、 長石わずか	淡黄色	
063	B区	S-15	瓦質土器				ヨコナテ	良好	角閃石少ない、 長石わずか	淡黄色	
064	B区	S-15	染付	高台径 (12.0)		ロクロ調整	透明釉、貫入、高台畳付は露胎	良好	白黄色		
065	B区	S-15				ロクロ調整	回転ナテ、淡褐色の釉葉かかる	良好	砂粒少ない	淡褐色	唐津?
066	B区	S-15	白磁	高台径 (5.4)		ロクロ調整	見込は露胎、 高台畳付に砂目痕跡あり	良好	白灰色		
068	B区	S-15	瀬戸美濃			ロクロ調整	施釉、貫入	良好	白黄色		折縁削皿 1590 ～1600
069		S-15				ロクロ調整 突帯貼付	ヨコナテ、外面へラケズリ、 突帯あり	良好	角閃石、石英微量	白灰色	
070	B区	S-15	瓦質土器				ヨコナテ、ナテ、突帯あり?	良好	角閃石、長石少ない	淡黄色	
071		S-15	瓦器質			ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	淡白灰色	
072	B区	S-15	瓦質			突帯貼付	内面ナテ後へラケズリ、 外面ヨコナテ、突帯あり	良好	角閃石多い、 長石少ない	淡黄褐色・ 灰白色	
073		S-15				ロクロ調整、脚貼り付け	ヨコナテ	良好	角閃石多い、小礫少 ない	淡黄褐色	
074	B区	S-15	瓦質				ヨコナテ、ナテ	良好	角閃石わずか、砂粒少 ない	淡黄色	
075	B区	S-15	土師質				ヨコナテ、ナテ後へラケズリ?	良好	角閃石、長石わずか	褐色	
076		S-12	青磁			ロクロ調整	内外面施釉	良好			
077	B区	S-12	瓦器質			ロクロ調整	内面スリ目、外面ヨコナテ	良好	砂粒少ない	暗黄褐色	
078		S-12	瓦器質			ロクロ調整	ヨコナテ、内面ナテ、スリ目、外面 へラケズリ	良好	砂粒、長石少ない	淡褐色	
079		S-14	縄文土器				内面丁寧なナテ、外面ナテ後沈線	良好	角閃石少ない、長石多 い	暗褐色	
081	B区	S-17	土師質			ロクロ調整	内面ヨコナテ、外面ミカキ	良好	長石わずか	褐色	
084	B区	S-32	白磁	(13.0)		ロクロ調整	施釉	良好	白灰色		
085		S-56	縄文土器				ナテ、内面指圧痕	良好	角閃石、長石多い	暗茶褐色	外面スス付着
086		S-82	縄文土器				ヨコ方向ナテ	良	角閃石、長石多い	黄褐色	
087		S-77	縄文土器				内面不明、外面ナテ	良	角閃石、長石多い	淡褐色	
088	B区	S-77	縄文土器				ナテ	良好	長石多い、角閃石少 ない、石英わずか	橙黄褐色	
089		P-20	縄文土器				条痕	良好	角閃石、長石多い	黄褐色	
090	B区	E2	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	暗灰色	口唇部に 自然釉付着
091		S-9	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒、角閃石少ない	淡黄灰色	
092	A区	C-11					内面カキ目状ヨコナテ、外面ナテ	良好	角閃石少し、長石多 い	茶褐色	古代?
093	A区	C-11		高台径 (8.4)		ロクロ調整	内面ナテ、外面回転ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	褐色	古代
094		S-20	陶器			ロクロ調整	内面無釉、口縁部施釉	良好	砂粒少ない	灰褐色	
095	B区	S-29	陶器?	(13.2)		ロクロ調整	口縁部を除く見込は露胎、貫入	良好	灰褐色		
096	B区	E7	瓦器質?	(18.0)	3.0		ヨコナテ、内面ナテ	良好	砂粒多い、長石、石英 少ない	淡橙褐色	
097	B区	E2	瓦器質			積み上げ	ヨコナテ、外面へラケズリ	良好	長石、角閃石少ない	灰褐色	
098	B区	南部表 土層	土師質?				ナテ、ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	淡黄橙褐色	
099	B区	S-70					ナテ	良好	長石多い、角閃石少 ない	茶褐色	

土錘

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
100	B区	D-11	土錘	素焼き	6.0	4.0	完形

石製品・金属製品

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
010	29	S-33	剥片	硅質頁岩	2.6	4.3	未製品
010	29	S-33	石核	硅質頁岩	4.1	2.4	
011	29	S-52	磨石		残存長 6.1	残存幅 7.7	
012	29	S-52	敲石		13.0	9.8	ベンガラ付着
020	31	S-34	敲石		11.7	13.4	
027	33	S-16	敲石		9.8	残存幅 6.0	
028	33	S-16	敲石		11.5	12.1	
029	33	S-16 3層	細石刃	黒曜石	1.2	0.8	
043	35	S-1	紡錘車	滑石	上部径 3.6	厚さ 1.3	
044	35	S-1			13.0	4.3	
045	35	S-1	石皿		21.2	25.0	
046	35	S-1	石皿	安山岩	33.8	32.1	故意に開けた穴あり
054	42	S-2 2層			12.8	10.9	
058	B区	S-15	馬具	鉄	現存長 11.0	1.7	蹄鉄
067	B区	S-15	石鍋	滑石			
082	B区	S-17	煙管	銅	4.3	厚さ 1.0	
083		S-17	石皿		16.9	24.9	
101		S-39	石皿		11.2	13.0	

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
102		北側表採	ナイフ型石器		2.9	1.15	
104		C11	角錐状石器	サヌカイト	5.2	1.6	
105		E1	石核		4.6	2.4	
107	B区	S-18	石製品?		2.5	1.7	

第4表 遺物観察表 (その3)

土器・陶磁器類

上畑成遺跡出土遺物観察表

遺物番号	図版番号	出土地点	器種	法量		器形、成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
105	85	S-16	瓦質土器	40.0	34.3	積み上げ、突帯は沈線で位置を設定し貼付	口縁部ヨコナテ、内面不定方向ナテ、外面ヘラケズリ後ナテ 花文様3連スタンプ	良好	砂粒少ない	灰白色	15世紀 底部未調整
028	72	SD-01	須恵器	(26.4)		積み上げ後タタキ成形	回転ナテ、内面同心円当て具、外面平行タタキ	良好	砂粒含む	灰褐色	同心円当て具、 平行タタキ板使用
029	72	SD-01	須恵器	(17.0)		積み上げ	回転ナテ、内面ナテ	良好	砂粒少ない	青灰色	
036	72	SD-01	瓦質土器	(3.7)		粘土紐積み上げ 内傾接合 突帯貼付	回転ナテ、ナテ、外面菊花文スタンプ2個あり	良好	砂粒少ない	黒灰色	
064	74	SD-01	陶器	(27.4)		ロクロ調整	回転ナテ、内面揃目 口縁部の一部に釉薬かかる	良好		灰褐色	唐津 18世紀～ 19世紀
045	74	SD-01	瓦質土器			積み上げ	内面揃目、外面ナテ	良好	角閃石、長石多い	淡灰色	
063	74	SD-01	陶器	(22.4)		ロクロ調整	回転ナテ、釉薬かかる、外面ハケ目波状文	良好	淡茶色		肥前 18世紀前半 IVb期?
046	74	SD-01	染付	(9.0)		ロクロ調整	回転ナテ、釉薬かかる	良好	淡灰色		肥前 17世紀後半
031	72	SD-01	白磁	(15.0)		ロクロ調整	回転ナテ、釉薬かかる	良好	淡灰色		11世紀
032	72	SD-01	備前焼	(25.6)		ロクロ調整	回転ナテ、内面揃目	良好	砂粒あり	暗赤褐色	中世4b～5a期、 重ね焼き
035	72	SD-01	瓦質			積み上げ、突帯貼付	ナテ、口縁部ヨコナテ、外面菊花文のスタンプ	良好	角閃石、砂粒多い	暗灰色	
040	72	SD-01	瓦質			積み上げ	ナテ、口縁部ヨコナテ	良	角閃石、長石多い	淡黄灰色	
039	72	SD-01	瓦質			積み上げ	ナテ、口縁部ヨコナテ	不良	角閃石、長石多い	淡黄白色	
053	74	SD-01	陶器	底径 (6.2)		ロクロ調整	回転ナテ、内面は無釉、高台登付は露胎。色絵	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
037	72	SD-01	瓦質			積み上げ	内面ナテ、外面・口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、砂粒多い	淡黄赤色	
047	74	SD-01	陶器	(10.0)		ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉、貫入陶胎染付	良好	淡灰色		唐津 17世紀末～ 18世紀前半
048	74	SD-01	陶器	(11.7)		ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉、陶胎染付	良好	淡茶色		唐津 18世紀前半
049	74	SD-01	陶器	(10.7)		ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉、貫入、陶胎染付	良好	灰色		唐津 18世紀前半
057	74	SD-01	染付	(12.2)		ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉	良好	淡灰色		唐津 18世紀後半
050	74	SD-01	陶器	(8.8)		ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉	良好	暗茶褐色		唐津 18世紀前半
038	72	SD-01	瓦質土器			積み上げ	ナテ、外面一部ナメナテ、口縁部ヨコナテ	良	角閃石、砂粒多い	淡黄灰色	
030	72	SD-01	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	回転ナテ、櫛描き波状文	良好	長石、砂粒多い	淡灰色	
034	72	SD-01	土師質	(22.8)		積み上げ、ロクロ調整	回転ナテ、外面の一部に灰釉かかる	良好	長石多い	淡灰色	
042	74	SD-01	土師質	底径 (6.6)			内面不定方向ナテ、外面剥離のため不明	良	角閃石、長石多い	暗茶褐色	二次被熱受ける
060	74	SD-01	染付	(8.0)		ロクロ調整	ロクロ調整 全面に施釉	良好	淡灰白色		肥前 18世紀後半 二次被熱受ける
033	72	SD-01	備前焼	(32.0)		積み上げ、ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	淡黄灰色	中世3期
059	74	SD-01	染付	(7.9)		ロクロ調整	ロクロ調整、全面に施釉 梅花文	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
056	74	SD-01	染付	(8.6)		ロクロ調整	ロクロ調整、全面に施釉	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
055	74	SD-01	染付	(9.6)		ロクロ調整	ロクロ調整、全面に施釉、見込網目文	良好	白色		肥前 18世紀後半
062	74	SD-01	染付	(3.5)		ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉	良好	白色		肥前 18世紀後半
058	74	SD-01	磁器	(9.9)		くらわんか碗 ロクロ調整	回転ナテ、全面に施釉	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
051	74	SD-01	陶器	(10.0)		ロクロ調整	回転ナテ、外面の口縁部から高台脇に鉄釉。他所は露胎	良好	精良	明赤褐色	肥前 18世紀前半
052	74	SD-01	陶器	(9.0)		ロクロ調整	回転ナテ、外面上半部に鉄釉。他所は露胎	良好	精良	明赤褐色	肥前 18世紀前半
044	74	SD-01	土師質			積み上げ	ヘラミガキ、胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ	良好	角閃石、長石多い	黄褐色	
041	72	SD-01	瓦質			積み上げ	ナテ、外面指ヨコナテ	良	角閃石、長石、砂粒多い	淡灰色	
043	74	SD-01	土師質	(8.9)	(1.3)	ロクロ水引調整、底部回転系切り	回転ナテ、内面指ナテ	良	角閃石、長石多い	淡赤白色	13～14世紀
017	72	SD-01	染付	(8.4)		ロクロ調整	回転ナテ 両面に施釉	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
018	72	SD-01	染付	(9.0)		ロクロ調整	回転ナテ 両面に施釉	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半

遺物番号	図版番号	出土地	器種	法量		器形、成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
061	74	SD-01	染付	(9.0)		ロクロ調整	回転ナテ 両面に施釉、陶胎染付	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
054	74	SD-01	染付	(9.8)	(4.75)	ロクロ調整	回転ナテ 高台壘付は露胎	良好	淡灰色		肥前 18世紀後半
016	72	SD-01	陶器			ロクロ調整	回転ナテ、内面播目	良好	淡茶灰色		16世紀後半 中国産か
027	72	SD-01	陶器	(13.4)		溝縁皿 ロクロ調整	回転ナテ 灰釉	良好	淡灰色 緑色		唐津焼 1600～1630年
026	72	SD-01	土師質				ヘラミガキ	良好	角閃石、長石多い	暗茶褐色	
096	79	SD-04	瓦質	底径(35.2)		積み上げ 突帯貼付 脚は切り取り	内面ナテ、ヨコナテ、外面ヘラケズリのちナテ、脚部ナテ	良好	角閃石、長石多い	淡黄灰色	
092	79	SD-04	土師器			積み上げ	ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	淡黄灰色	
093	79	SD-04	瓦質			積み上げ	内面ヘラケズリ後ナテ、外面ヘラケズリ、口縁部ヨコナテ	良好	長石多い	暗灰色	16世紀前半
089	79	SD-04	須恵器			積み上げ、ロクロ調整、脚部に3ヶ所の方形スカシ	回転ナテ、坏部内面不定方向ナテ、カキ目、脚部刀子状工具痕あり	良好	角閃石、長石多い	暗灰色	
095	79	SD-04	瓦質	(27.8)		積み上げ	内面ナメナテ、外面ヘラケズリ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	淡茶褐色	外面ス付着
094	79	SD-04	土師質	(20.0)		積み上げ	内面ナテ、外面ヘラケズリ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	淡茶色	
097	79	SD-04	瓦質			粘土板を組み合わせる	内面タテ・ヨコナテ、外面ナテ、ヨコナテ	良好	砂粒少ない	暗灰色	
014	69	SD-06	土師器	13.2	3.9	積み上げ、ロクロ調整(右回り)、底部回転ヘラ切り	回転ナテ、底部内面はらせん状の回転指ナテ	良好	角閃石、砂粒多い	淡灰白色～淡灰褐色	重ね焼き
102	81	SD-05	備前焼			焼締め	ヨコナテ	良好	砂粒多い	茶褐色	中世5～6a期
101	81	SD-05	須恵器			積み上げ、タタキ成形、ロクロ調整	回転ナテ、胴部内面当て具痕、胴部外面タタキ痕跡、タテハケ	良好	角閃石、長石多い	暗灰色	同心円当て具、平行タタキ板使用
015	69	SD-06	須恵器			積み上げ、ロクロ調整、	回転ナテ、内面ナテ、自然軸かかる	良好	角閃石、長石多い	暗灰色	
013	69	SD-06	土師器	(12.6)	(4.1)	粘土紐積み上げ ロクロ調整(右回り) 底部回転ヘラ切り	回転ナテ、底部に板状圧痕あり	良好	精良 角閃石多い	明黄褐色	9世紀
012	69	SD-06	弥生土器				ヨコナテ、ナテ	良好	角閃石、長石多い	淡黄色	弥生時代後期
		SD-12	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	ヨコナテ	良好	砂粒少ない	暗灰色	
		中津道路試掘犬ノ丸	須恵器			積み上げ、ロクロ調整(右回り)、内面しぼり痕あり	回転ナテ	良好	精良	暗灰褐色	
		SD-13	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	暗灰色	
090	79	SD-04	染付	底径(4.5)		ロクロ調整	回転ナテ、見込蛇ノ目軸剥ぎ、外面高台脇から底部にかけて露胎	良好		淡灰白色	18世紀後半
091	79	SD-04	陶器	底径5.0		ロクロ調整	回転ナテ、高台脇から高台内は露胎	良好	均一	淡茶褐色	福岡産(高取上野系) 17世紀初頭～前半
103	81	SD-05	染付	底径(4.7)		ロクロ調整	回転ナテ、高台壘付は露胎	良好		淡灰白色	肥前 18世紀後半
104	81	SD-05	染付	底径(1.6)		ロクロ調整	回転ナテ、高台壘付は露胎 型紙摺	良好		淡灰白色	明治10年代
		SD-09	磁器	底径4.0		ロクロ調整	回転ナテ、見込蛇ノ目軸剥ぎ、高台脇から高台内にかけて露胎	良好		淡灰色	肥前 18世紀後半
		表採	陶器	底径4.5		ロクロ調整	回転ナテ、両面に施釉 見込みと底部に砂目残る	良好		暗灰緑色	朝鮮王朝産 16世紀後半
106	87	SX-01	瓦質土器	(9.4)	(4.5)	ロクロ調整	ナテ、外面ヘラケズリ	良好	角閃石多い	淡灰褐色	16世紀後半
001	60	S-26	縄文土器	(33.0)		積み上げ	口縁部から内面はヨコナテ、外面はナテ。無文	不良	角閃石、長石、砂粒多い	赤褐色	縄文時代早期
005	60	S-26	縄文土器			積み上げ	ヨコナテ、内面はナテ、外面は不定方向ナテ。無文	不良	角閃石、長石、砂粒多い	赤褐色	縄文時代早期
007	63	S-27	縄文土器			積み上げ、外傾接合	内面ナテ、外面口縁部ヨコナテ、胴部不定方向ナテ。無文	不良	角閃石、長石、砂粒多い	黄褐色	縄文時代早期
003	60	S-26	縄文土器			積み上げ	内面ナテ、外面口縁部タテナテ、胴部ナテ。無文	不良	角閃石、長石多い	暗赤褐色～黄褐色	縄文時代早期
002	60	S-26	縄文土器			積み上げ	ナテ、内面ナメナテ。無文	不良	角閃石、長石多い	暗赤褐色	縄文時代早期
004	60	S-26	縄文土器	(28.5)		積み上げ	口縁部から内面はヨコナテ、外面はナテ。無文	不良	角閃石、長石、砂粒多い	赤褐色	縄文時代早期
008	67	SK-29	縄文土器				ナテ	良好	角閃石、長石多い	黄褐色	縄文時代早期
009	67	SK-29	縄文土器				ナテ	良好	角閃石、長石多い	橙黄褐色	縄文時代早期
010	67	SK-29	縄文土器				指圧痕、ナテ	良好	角閃石、長石多い	茶褐色	縄文時代早期
011	67	SK-29	縄文土器				ナテ	良好	角閃石、長石多い	橙黄褐色	縄文時代早期

遺物番号	図版番号	出土地点	互当分類	法量		成形および調整		焼成	胎土	色調	備考
				全長	互当径	胴部凸面	胴部凹面				
065	74	SD-01				ナテ	指ナテ		角閃石、雲母少量	淡灰色	

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
073	74	SD-01	土鍾	素焼き	5.0	1	A類
071	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.5	1	
078	74	SD-01	土鍾	素焼き	3.9	1	A類
079	74	SD-01	土鍾	素焼き	残存長 3.1	1	A類
023	72	SD-01	土鍾	素焼き	5.1	2	B類
024	72	SD-01	土鍾	素焼き	4.7	1.0	A類
025	72	SD-01	土鍾	素焼き	4.4	1	B類 タテの接合痕あり
022	72	SD-01	土鍾	素焼き	3.8	1	B類
019	72	SD-01	土鍾	素焼き	5.2	1	A類
020	72	SD-01	土鍾	素焼き	5.1	1	B類 完形
021	72	SD-01	土鍾	素焼き	4.6	1	A類 完形
084	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.4	2	管状土鍾 B類 完形
080	74	SD-01	土鍾	素焼き	5.05	1	A類 完形
087	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.4	1	A類 完形
072	74	SD-01	土鍾	素焼き	5.1	2	A類
081	74	SD-01	土鍾	素焼き	6.3	1	管状土鍾 B類
083	74	SD-01	土鍾	素焼き	5.0	1	管状土鍾 B類
075	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.8	1	A類
076	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.3	1	管状土鍾 A類
086	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.6	1	管状土鍾 B類
088	74	SD-01	土鍾	素焼き	8.65	2.0	棒状土鍾 穿孔・刻み2ヶ所
067	74	SD-01	土鍾	素焼き	5.2	1.2	管状土鍾 B類
068	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.6	1.0	管状土鍾 B類
082	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.9	1.5	管状土鍾 A類
069	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.75	1.1	管状土鍾 B類
077	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.7	1.15	管状土鍾 B類 完形
070	74	SD-01	土鍾	素焼き	9.6	1.2	管状土鍾 B類 完形
085	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.3	1.5	管状土鍾 A類 完形
074	74	SD-01	土鍾	素焼き	4.5	1.2	管状土鍾 B類 完形
066	74	SD-01	土鍾	素焼き	5.1	1.15	管状土鍾 B類 完形

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
098	79	SD-04	磨石	安山岩	17.4	20.2	
100	79	SD-04	砥石		6.3	4.8	砥面は3面
099	79	SD-04	磨石・敲打石	カンラン石、輝石安山岩	11.0	10.45	
006	60	S-26	磨石	安山岩	14.3	5.8	磨り面は2面

第5表 遺物観察表(その4)

馬下遺跡出土遺物観察表

土器・陶磁器類

遺物番号	図版番号	出土地点	種別・器種	法量		器形、成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
001	97	S-10	弥生土器	(14.0)		積み上げ	ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	淡褐色	
002	99	SD-5	瓦質			積み上げ	ヨコナテ	良好	角閃石、長石やや多い	黄灰色	
003	99	SD-5	瓦質			積み上げ	ヨコナテ、外面ヘラミガキ	良好	角閃石、長石やや少ない	灰色～黒褐色	
004	103	SD-6	須恵器			ロクロ調整	坏内面多方向ナテ、外面ヨコナテ	良好	角閃石、長石、金雲母少ない	灰褐色～暗灰色	黒斑あり?
005	103	SD-6	須恵器	(18.0)		ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	淡灰色	
006	103	SD-6	須恵質			ロクロ調整?	ヨコナテ	良好	角閃石、長石やや多い	灰褐色	東播系
007	103	SD-6	瓦質	(17.0)	5.4	積み上げ? 外面接合痕あり	ナテ、外面指圧痕、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石、金雲母やや多い	黄灰色～黒灰色	
008	103	SD-6	瓦器	(16.0)	4.8	押し出し技法	内面ナテ、外面指圧痕、ナテ、口縁部から外面をヨコナテ	良	角閃石、長石多い	灰～黒灰色	
009	103	SD-6	瓦質			積み上げ	ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石、金雲母やや多い	黄灰白色～黒灰色	
010	103	SD-6	瓦器	(15.2)	3.6	積み上げ→押し出し。底部糸切り?	ヨコナテ、内面平滑なナテ、外面指オサエ	良好	角閃石、長石少ない	淡灰色～黒灰色	
011	103	SD-6	瓦質			積み上げ? 外面接合痕あり	内面ヨコハケ、外面指圧痕、ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石やや多い	灰白色～黒灰褐色	
012	103	SD-6	土師器	13.2	2.9	ロクロ調整、底部回転糸切り	回転ナテ、内面ナテ、底部に板状圧痕あり	良好	角閃石、長石多い	淡黄褐色	底部糸切り
013	103	SD-6	土師器	底径(8.0)		ロクロ調整、底部回転糸切り	回転ナテ	良好	角閃石、長石やや多い	白黄褐色	底部糸切り
014	103	SD-6	土師器		0.9	底部回転糸切り?	回転ナテ	良好	角閃石、長石多い	黄白褐色	底部糸切り
015	106	S-3	須恵器	(10.5)		ロクロ調整	回転ナテ	良好	角閃石わずか	灰色	
016	106	S-3	須恵器	(11.2)		ロクロ調整	回転ナテ	良好	角閃石わずか	灰色	
017	106	S-3	須恵器	(18.6)		ロクロ調整	回転ナテ	良好	堅緻	青灰色	内面鉄分付着
018	106	S-3	須恵器			ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石やや多い	暗灰褐色	
019	106	S-3	須恵器			ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	黄灰白色	
020	106	S-3	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	ナテ	良好	角閃石少ない	灰褐色	
021	106	S-3	須恵質				回転ナテ	良好	角閃石、長石ごくわずか	灰色	
022	106	S-3	須恵器	つまみ径 2.5		ロクロ調整	ヨコナテ、外面ヘラケズリ	良好	角閃石、長石少ない	黄灰白色	
023	106	S-3	須恵質				ヨコナテ	良好	角閃石、長石わずか	灰色	
024	106	S-3	須恵器				回転ナテ	良好	角閃石、長石わずか	灰～白色	
025	106	S-3	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ、波状文	良	堅緻、長石少ない	淡黄灰色	
026	106	S-3	須恵器			積み上げ	ヨコナテ	良好	角閃石わずか	灰褐色	二次焼成受ける
027	106	S-3	須恵器			積み上げ、一条突帯	ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	灰褐色	
028	106	S-3	須恵器			ロクロ調整	回転ナテ	良好	堅緻	青灰色	灰被りあり
029	106	S-3	須恵器			積み上げ	ヨコナテ	良好	角閃石わずか	灰白色～黄灰色	二次焼成受ける
030	106	S-3	瓦質	(12.2)		積み上げ	ヨコナテ、外面ハケ状工具痕	良	砂粒少ない	灰白色	
031	106	S-3	須恵器	(11.0)		積み上げ	ヨコナテ	良好	砂粒少ない	灰褐色	
032	106	S-3	青磁	(10.2)	2.1		両面に施釉、貫入。底部は露胎、ヘラケズリ	良好	淡黄灰色		同安窯
033	106	S-3	青磁	底径(5.0)		ロクロ調整	施釉 底部は露胎	良好	灰色		同安窯
034	106	S-3	青磁				両面に施釉、貫入。胴部下半部は露胎	良好			
035	106	S-3	青磁			ロクロ調整	両面に施釉、貫入、一部露胎	良好	灰色		同安窯
036	106	S-3	青磁				両面に施釉	良好	灰色		龍泉窯
036	106	S-3	青磁				両面に施釉。胴部下半部より高台脇にかけて露胎	良好	灰色		同安窯
037	106	S-3	青磁?				両面に施釉、貫入	良好	灰黄色		同安窯

遺物番号	図版番号	出土地点	種別・器種	法量		器形・成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
038	106	S-3	青磁?				両面に施釉	良好	灰色		同安窯
039	106	S-3	青磁	(7.5)		ロクロ調整	両面に施釉、貫入 口サビ?	良好	灰色		龍泉窯
040	106	S-3	白磁	(16.6)		ロクロ調整	両面に施釉	良好	白灰色		
042	106	S-3	青磁			ロクロ調整	両面に施釉	良好	灰色		
043	106	S-3	青磁				両面に施釉、貫入。オリブ色の釉薬	良好	青灰色		
044	106	S-3	青磁				両面に施釉、鑄蓮弁	良好	灰白色		龍泉窯
045	106	S-3	白磁			ロクロ調整	両面に施釉、貫入 口縁部口禿げ	良好	灰色		
046	106	S-3	白磁			ロクロ調整、口縁部玉縁	両面に施釉	良好	灰色		
047	107	S-3	瓦質	底径 5.0		押し出し技法	内面ヘラミガキ、外面ナデ、底部に板状圧痕あり	良好	角閃石、長石、金雲母少ない	黄灰色	
048	107	S-3	瓦質	底径 (5.0)		ロクロ調整	内面丁寧なナデ、外面ヨコナデ後ミガキ、ナデ	良好	角閃石わずか	灰色	
049	107	S-3	瓦器質	高台径 (6.6)		押し出し技法	内面ナデ、外面は摩耗	良	精緻、長石多い	青灰色	
050	107	S-3	瓦器質	底径 5.0)			内面ていねいなナデ、外面ヨコナデ後指圧痕、高台ナデ		角閃石わずか	白色~灰色	
051	107	S-3	瓦質?	底径 7.0)		ロクロ調整	ナデ、外面ヨコナデ、一部ミガキ	良好	長石わずか	灰色	
052	107	S-3	瓦器質			押し出し技法、高台付碗	ナデ、口縁部から胴部上半ナデ後ヘラミガキ、外面下半部・底部ナデ	良好	角閃石少ない、長石多い	灰黄褐色~黒灰色	
053	107	S-3	瓦器質			押し出し技法	内面ナデ、外面指圧痕、ナデ、口縁部から外面をヨコナデ	良	角閃石少ない、長石多い	灰~黒灰色	
054	107	S-3	瓦質	(25.8)		積み上げ、巻き上げ、貼付突帯	口縁部から突帯にかけてヨコナデ、内面ヨコハケ、外面ナデ	良好	角閃石、長石、金雲母やや多い	黒灰褐色~黄灰褐色	
055	107	S-3	瓦質			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、長石少ない	淡黄褐色~暗灰褐色	
056	107	S-3	須恵器? 中世?	(24.8)		ロクロ調整	回転ナデ	良好	堅緻	青灰色	
057	107	S-3	瓦質			積み上げ?、巻き上げ	口縁部ヨコナデ、内面ナデ	良好	角閃石、長石、金雲母やや多い	黄灰褐色~黒褐色	外面スス付着
058	107	S-3	瓦質			ロクロ調整	内面ナデ後細かいヨコハケ、外面ヨコナデ、ナデ	良好	角閃石わずか	灰色	
059	107	S-3	瓦質			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、長石少ない	灰褐色	
060	107	S-3	瓦質			ロクロ調整	回転ナデ	良好	角閃石わずか	灰~白色	東播系?
061	107	S-3	瓦質			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、長石少ない	灰白色	
062	107	S-3	瓦質			積み上げ、巻き上げ	口縁部ヨコナデ、内面ナデ、卸し目、外面ヘラケズリ	良好	角閃石、長石、金雲母やや多い	黄灰白色	
063	107	S-3	瓦質			積み上げ	ナデ	良好	長石少ない	淡黄褐色~淡灰色	
064	107	S-3	土師質	(40.0)		積み上げ?	内面ナデ、外面ケズリ後ヨコナデ、口縁部ヨコナデ	良好	角閃石、長石多い	灰黄褐色	
065	107	S-3	土師器	(37.0)		積み上げ	ヨコナデ、内面指圧痕、外面ケズリ後ナデ、ケズリ	良好	角閃石多い、長石少ない	浅黄色~灰黄褐色	外面スス付着
066	108	S-3	土師質	(26.9)			内面ナデ後ヨコハケ、外面ヨコナデ、ナデ後タテハケ	良好	角閃石多い、長石少し	灰白色~茶褐色	
067	108	S-3	土師質			ロクロ調整	調整不明瞭	良好	角閃石少ない、長石わずか	淡黄色~橙色	
068	108	S-3	土師質	(19.2)		ロクロ調整	内面ナデ後ヨコハケ、外面ヨコナデ後指圧痕、口縁部ヨコナデ		角閃石少ない	淡黄色~橙色	
069	108	S-3	土師器			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、長石、砂粒多い	にぶい黄橙褐色	
070	108	S-3	土師質			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、長石多い	暗褐色	外面スス付着
071	108	S-3	土師質	(24.0)		ロクロ調整	内面ヨコナデ、ナデ後細かいヨコハケ、外面ナデ後ナメハケ	良好	角閃石、長石わずか	橙色~黒褐色	スス付着?
072	108	S-3	土師質			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、長石多い	暗褐色	
073	108	S-3	土師質			ロクロ調整?	内面ナデ、ヨコナデ、外面ヨコナデ後指圧痕、ナデ後ケズリ	良好	角閃石多い、長石少ない	淡黄色~黒色	
074	108	S-3	土師質			ロクロ調整	ナデ、口縁部ヨコナデ	良好	角閃石、長石多い	淡黄色	
075	108	S-3	土師質			ロクロ調整	ヨコナデ、ナデ、内面一部ハケ?	良好	角閃石、長石多い	橙色	
076	108	S-3	土師質			積み上げ	内面ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヨコナデ	良好	角閃石、長石多い	暗褐色	
077	108	S-3	土師器			積み上げ	内面ヨコナデ	良好	角閃石多い	暗灰褐色	外面スス付着
078	108	S-3	土師器			甕の把手部、積み上げ	指圧痕、ナデ	良好	角閃石、長石多い	淡褐色	
080	108	S-3	土師質	底径 (7.0)		ロクロ調整	内面・高台ナデ、外面胴部ヨコナデ	良好	角閃石、長石少ない	淡橙色	

遺物番号	図版番号	出土地点	種別・器種	法量		器形、成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
081	108	S-3	土師質	高台径 (7.5)		ロクロ調整?高台付碗	内面、高台内ナテ、外面から高台にかけてヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	淡黄褐色	
091	108	S-3	瓦質	底径 (7.0)		積み上げ	ナテ、高台に荒いヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	灰白色	静止糸切り?
092	108	S-3	土師器				内面ナテ?ハケ?、外面ヨコナテ後ミガキ	良好	角閃石多い、長石少ない	暗灰褐色	外面スス付着
093	108	S-3	土師質				ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	褐色~淡黄色	
095	108	S-8	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	淡灰色	
096	108	S-8	須恵器?			ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	淡灰色	
096	108	S-8	古代土師器	底径 (12.2)		ロクロ調整、回転ヘラ切り	回転ナテ、底部に板状圧痕あり	良好	角閃石、長石少ない	灰黄褐色	
098	108	S-8 トレンチ内下層	古代土師器			積み上げ	ヨコナテ	良好	角閃石、長石多い	黄褐色	
099	108	S-8	瓦器?			積み上げ	ヨコナテ、内面平滑なナテ	良好	角閃石、長石少ない	淡灰色~濃灰色	
100	109	S-1	染付	(9.8)	4.5		両面に施釉。「大坂新町お笹紅」	良好	白灰色		肥前系 18世紀末~19世紀
101	109	S-1	磁器	(9.6)	4.8	くらわんか碗	両面に施釉	良好	白灰色		18世紀後半
102	109	SK-7	土師質			積み上げ	ヨコナテ	良好	角閃石少ない、長石多い	暗褐色	
103	109	S-1	白磁	(9.0)	1.8		見込に文様?	良好	白灰色		瀬戸美濃系 19世紀中頃
104	109	S-1	陶器?	3.0		茄子徳利	内面は口縁部を除き露胎	良好	灰色		高取焼?小鹿田焼? 19世紀代
105	109	SK-7	陶器?				陶胎染付、貫入	良好	灰色		肥前 18世紀前半
106	109	S-1	磁器	(10.0)			両面に施釉、型紙摺	良好	白灰色		肥前?
107	109	S-2	備前焼			ロクロ調整	内面回転ナテ後スリ目、外面回転ナテ	良好	堅緻	暗灰紫褐色	
108	109	S-2	磁器	高台径 (6.0)		広東碗	両面に施釉	良好	白灰色		1780~1810年
109	109	S-2	磁器	(11.0)	4.9		両面に施釉	良好	白灰色		瀬戸美濃系 現代
110	109	S-2	磁器	7.2	2.9		両面に施釉	良好	白灰色		瀬戸美濃系 現代
111	109	下層	須恵器?				ヨコナテ、内面ナテ、外面回転ナテ	良好	角閃石わずか、砂粒少ない	灰白色	
112	109	下層	瓦質土器	底径 (3.8)		ロクロ調整	内面・底部ナテ、胴部から高台外面ヨコナテ	良好	角閃石多い、石英少ない	黒色	
113	109	下層	瓦質			ロクロ調整?	内面ナテ後ヘラミガキ、外面ヘラケズリ後一部ミガキ、ヨコナテ、ナテ	良好	角閃石、石英わずか	灰白色	
114	109	下層	土師質	底径 (9.2)		ロクロ調整、底部回転糸切り	ヨコナテ	良好	角閃石多い、長石少ない	灰白色	
115	109	トレンチ内	須恵器?	(13.5)	3.6	ロクロ調整 底部回転ヘラ切り	ヨコナテ、内面ナテ	良好	角閃石わずか、砂粒少ない	灰色	
116	109	トレンチ内	瓦器	底径 (6.6)		ロクロ調整	ヨコナテ、底部ナテ	良好	角閃石、長石少ない	灰色	
117	109	トレンチ内				ロクロ調整?	ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、石英多い、長石少ない	灰黄色	
118	110	遺物・石集中籠①	須恵器	(26.0)		積み上げ、ロクロ調整、タタキ成形	頸部ヨコナテ、内面当て具痕、外面タタキ目、カキ目	良好	砂粒少ない	にぶい赤褐色	当て具、平行タタキ板使用
119	110	トレンチ内	須恵器	(27.1)		積み上げ、ロクロ調整	ヨコナテ	良好	砂粒少ない	灰オリーブ	
120	110	西部	瓦質			ロクロ調整	内面回転ナテ、外面襷描き波状文、平行文	良好	石英、砂粒少ない、	灰色	
121	110	西部	須恵質?			ロクロ調整?	回転ナテ	良好	砂粒少ない	灰色	
122	110	西部	須恵器	(12.7)		ロクロ調整	回転ナテ	良好	砂粒少ない	灰色~黒褐色	
123	110	トレンチ内	瓦器	15.4	5.0	積み上げ、ロクロ調整、押し出し技法、高台貼付	外面上半部から内面ヨコナテ、下半部未調整、高台付近に指オサエ	良好	角閃石、長石少ない	灰黄色~黒色	
124	110	トレンチ内	瓦質	(34.6)		積み上げ、ロクロ調整	胴部外面ヘラ、口縁部ヨコナテ	良好	長石、砂粒少ない	黒色	
125	110	トレンチ内	瓦質	底径 (8.6)		ロクロ調整	胴部内面ナテ後ハケ、外面ヨコナテ、底部内面花文、外面ナテ	良好	長石、砂粒少ない	灰色	
126	110	西部	瓦質?			ロクロ調整	内面ナテ後指ナテ、外面ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石わずか、砂粒少ない	灰色	
127	110	トレンチ内	瓦質			ロクロ調整	内面ナテ後指ハケ、外面ケズリ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石、長石少ない	灰色	
128	110	トレンチ内	土師質			ロクロ調整	内面ヨコナテ後ヨコハケ、外面ヨコナテ後ハケ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石多い、砂粒少ない	にぶい黄褐色~黒色	外面スス付着
129	110	トレンチ内	土師質			ロクロ調整	内面ヨコハケ後ナテ、外面ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	角閃石多い、石少ない	褐灰色~にぶい黄褐色	
130	110	トレンチ内	土師質	(10.0)		ロクロ調整?	ヨコナテ、底部ナテ	良好	角閃石、砂粒少ない	淡褐色	
131	110	トレンチ内	内黒土器	底径 (7.6)		ロクロ調整?	外面ミガキ、ヨコナテ、高台量付から高台内ナテ	良好	角閃石、長石少ない	にぶい黄褐色・黒色	

遺物番号	図版番号	出土地点	種別・器種	法量		器形・成形など	調整、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高						
132	110	トレンチ内	土師器	底部(7.3)		積み上げ、ロクロ調整	ヨコナデ	良好	長石、砂粒少ない	にぶい黄褐色	10～11世紀
133	110	トレンチ内	黒色土器	底部(7.3)		積み上げ、ロクロ調整	ヨコナデ	良好	長石、砂粒少ない	にぶい褐色	黒色土器A類 9～10世紀
135	111	西区上層	須恵器	(9.8)		ロクロ調整	ヨコナデ、底部ヘラケズリ	不良	角閃石、長石、 金雲母やや少ない	黄褐色	外面は赤変?
136	111	上層	須恵器	つまみ 径2.2		ロクロ調整	ヨコナデ	良好	角閃石、長石やや多い	茶灰色	
137	111	西上層	須恵器	(15.0)		積み上げ、タタキ成形	口縁部から頸部ヨコナデ、胴部内面 当て具痕、外面タタキ目	良好	砂粒少ない	褐灰色	同心円状当て具・ 平行タタキ板使用
138	111	上層	土師質			積み上げ	内面ナデ、口縁部ヨコナデ、外面ス ス付着のため不明	良好	角閃石、長石やや多い	灰褐色	
139	111	上層	土師質			積み上げ	ヨコナデ、外面胴部はスス付着のた め不明	良好	角閃石、長石、 金雲母やや多い	暗灰褐色	
140	111	西上層	土師器			積み上げ	ヨコナデ、内面ヨコハケ目	良好	角閃石、長石少ない	淡橙色～灰 黄褐色	
142	111	西下層	須恵器			ロクロ調整	ヨコナデ	良好	角閃石、 長石やや少ない	青灰色	
143	111	西下層	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	回転ナデ	良好	砂粒少ない	灰色	
144	111	西下層	須恵器			積み上げ、ロクロ調整	ヨコナデ	良好	砂粒少ない	褐灰色	
145	111	西下層	須恵器	(32.3)		ロクロ調整	ヨコナデ、櫛描き波状文、沈線、口 縁部ヨコナデ	良好	角閃石、 長石やや少ない	暗灰褐色	集中区に同一個体 あり
146	111	西区下層	青磁				両面施軸	良好		オリーブ色	
147	111	西下層	白磁			ロクロ調整	両面施軸、一部露胎	良好		灰白色	
148	111	西下層	瓦器	底径 (6.2)			内面上半部ミガキ、下半部丁寧なナデ、 外面ミガキ、高台とその周辺ヨコナデ	良好	角閃石、長石少ない	灰黄色～黒 色	搬入品
149	111	西下層	瓦器	(12.0)		押し出し技法	外面上半部から内面丁寧なヨコナ デ、下半部未調整	良好	角閃石、砂粒少ない	灰白色～黒 灰色	
150	111	西下層	土師器			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、砂粒多い	灰黄褐色	古代
151	111	西下層	土師器			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石多い、 長石少ない	灰黄褐色	古代
152	111	西区下層	土師器			積み上げ	内面ハケ目、外面ナデ、口縁部ヨコ ナデ	良好	角閃石、長石少ない	明橙色～に ぶい橙褐色	一部スス付着
153	111	西下層	土師器			積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石、砂粒多い	灰黄褐色	
154	111	西下層	土師器	(21.2)		積み上げ	ヨコナデ	良好	角閃石多い、長石少 ない	灰黄褐色	
155	111	西下層	土師器			積み上げ	外面上半部から内面ヨコナデ、外面 下半部ケズリ	良好	長石、砂粒少ない	明赤灰色	口縁部がやや赤 変。被熱のためか
156	112	遺物・石集中 範囲②	須恵器			ロクロ調整	ヨコナデ	良好	角閃石、長石少ない	暗灰紫色	
157	112	集中①	須恵器			積み上げ、タタキ成形、ロクロ調整	頸部回転ナデ、胴部内面当て具痕、 外面タタキ目、カキ目	良好	砂粒少ない	灰色	当て具、平行タ タキ板使用
158	112	西集中①	須恵器			粘土紐積み上げ、タタキ成形	頸部から胴部にかけてヨコナデ、胴 部内面当て具痕、外面タタキ目残る	不良	角閃石、長石、 砂粒やや多い	淡茶褐色	同心円状当て具・木目 直交平行タタキ板使用
159	112	集中①	須恵器	(16.1)		積み上げ、ロクロ調整(右回転)	回転ナデ、天井部近く回転ヘラケズ リ、カキ目	良好	砂粒少ない	灰色	
160	112	集中①	須恵器	(41.6)		ロクロ調整	ヨコナデ、内面ナデ、当て具痕、頸部外 面沈線、櫛描き波状文、口縁部ヨコナデ	良好	角閃石、 長石やや少ない	青灰色・黒 灰色	同一個体2点 同心円当て具使用

銭貨

遺物番号	図版番号	出土地点	銭種	初铸年	法量			重量(g)	備考
					径	孔	厚さ		
090	108	S-3	天聖元寶	1023					

土製品

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
094	108	S-3	土鍾	素焼き	現存長 4.8	1.4	
085	108	S-3	土鍾	素焼き	現存長 4.4	1.3	
086	108	S-3	土鍾	素焼き	現存長 4.5	1.3	
082	108	S-3	土鍾	素焼き	5.5	1.3	
083	108	S-3	土鍾	素焼き	5.2	0.9	
084	108	S-3	土鍾	素焼き	4.8	1.5	
088	108	S-3	土鍾	素焼き	3.9	1.2	
087	108	S-3	土鍾	素焼き	現存長 4.0	1.2	
079	108	S-3	鞆羽口		現存長 3.8		

瓦

遺物番号	図版番号	出土地点	法量		成形および調整		焼成	胎土	色調	備考
			全長	最大幅	凹面	凸面				
141	111	西 上層・ 下層			布目痕、丁寧なナデ	ナデ	良好	角閃石わずか、 砂粒少ない		

石製品

遺物番号	図版番号	出土地点	種別	材質	法量		備考
					長さ	幅	
134	110		石鍋	滑石			
089	108	S-3	砥石		現存長 6.0	厚さ 2.5	使用面4面

写真図版



諸田南遺跡全景 (北から)



諸田南遺跡全景 (西から)



諸田南遺跡全景 (東から)



調査区東側



調査区西側



調査区中央部



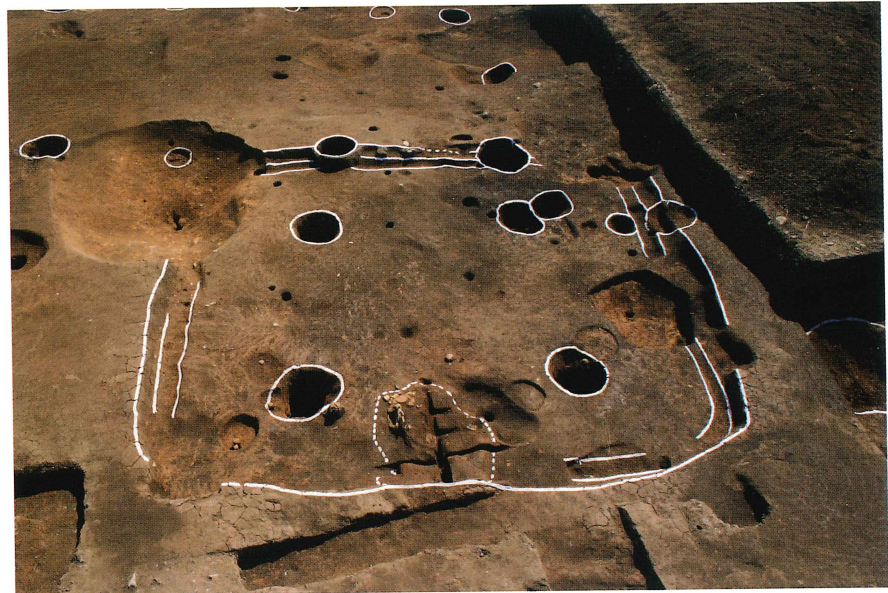
S-1 完堀状況



S-1 底面の状況



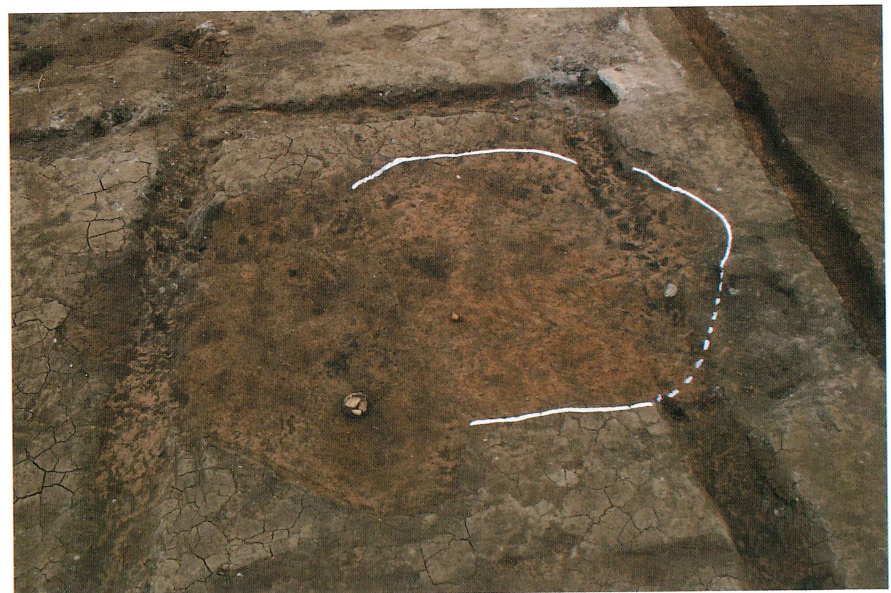
S-4 完堀状況



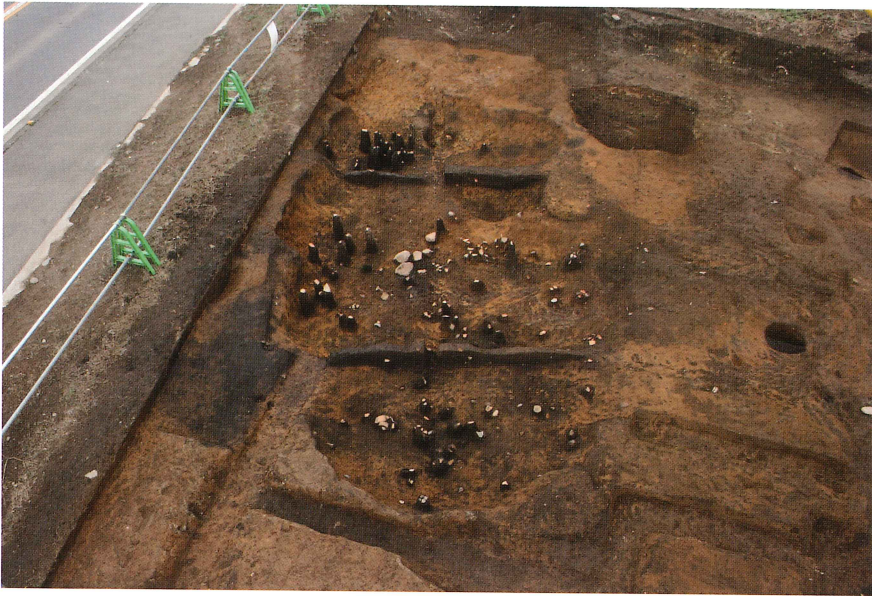
SH-6 完堀状況



SH-6 竈近景



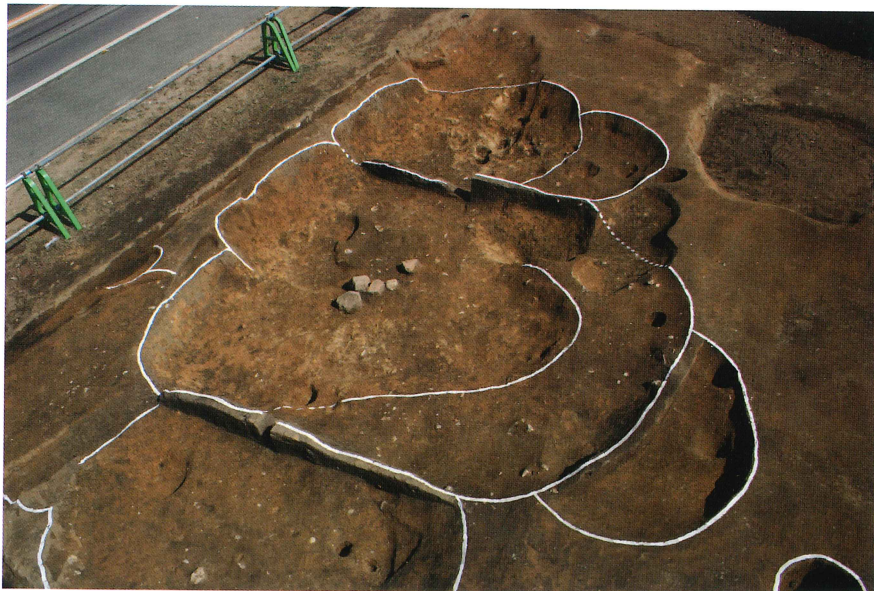
SK-3 完堀状況



SK-5、11、12
遺物出土状況その1



SK-5、11、12
遺物出土状況その2



SK-5、11、12
完掘状況その1



SB-2 完堀状況その 2



SB-2 完堀状況



SD-9 推積状況



田代遺跡全景(空撮) その1



田代遺跡全景(空撮) その2



調査区全景 (南から)



S-52完堀状況



S-59、62完堀状況



S H - 34遺物出土状況



S H - 34完掘状況



S K - 16遺物出土状況



SK-16推積状況



SH-1遺物出土状況



SH-1完堀状況



SH-3 完堀状況



SH-3 貼床完堀状況



SH-10 完堀状況



SH-10 竈の状況



SB-4 完堀状況



SB-5 完堀状況



SK-2 遺物出土状況



SK-2 完掘状況



SK-11 完掘状況



SD-15完堀状況
(東から)



SD-15完堀状況
(西から)



SD-15断面a



SD-15 断面 b



SD-12、13 完掘状況



SD-8、SD-9 完掘状況



SK-17完堀状況



SK-32検出状況



SK-32完堀状況